GAKU
NewsLetter

広報誌『学』
JANUARY 2021
Vol.19

特集 デジタル教育

特別対談

下村博文
衆議院議員
自由民主党政務調査会長
デジタル社会推進本部・本部長

平井卓也
衆議院議員
デジタル改革担当大臣

髙橋洋一
内閣官房参与・嘉悦大学教授

河端真一
ena学院長・法学博士

ネットで指導します。

いつでも好きなときに 全教科受講できます。

料金プラン 月4回 3,800円(税抜) 1回950円(税抜)

教師陣は最難関大学在籍

続々と入会者が増えています!

入会者の声

- 分からないところをきれいにまとめてくださり、物凄く分かりやすかったです。先生がどう中学生の時に考えていたかなどを教えてくれて参考になりました。
- 1回ずつ、分かるか確認しながら進めてくれて、とても質問しやすかったです。優しく教えてくださり、ありがとうございました。
- 授業中のまとめ方がわかりやすく、最後にも確認としてまとめていただいたのがよかったです。先生の体験に基づいたアドバイスもためになりました。ありがとうございました。
- 先生が問題を解くスピードがとても速く、驚きました。解説中に分からないと言った時に、分かりやすく教えてくれました。どれも簡単に解く方法が分かりました。ありがとうございました。
- 算数がこんなに楽しいとは思わなかったと娘が言っており、次の授業も先生にお願いしたいと思いました。

無料体験実施中

家庭教師Campの無料体験にお申し込みいただくと、オンライン授業を無料でお試しいただけます。無料期間終了日までに退会処理をしていただければ、月額利用料や退会費用は一切かかりません。

授業開始までの簡単4ステップ

- **STEP 1 まずは無料体験申し込み**
  無料体験お申し込みフォームに必要事項を入力し、無料体験授業の登録をしてください。
- **STEP 2 会員ログイン**
  登録後に取得するIDとパスワードでWEBサイトよりログインしてください。
- **STEP 3 家庭教師を選ぶ**
  自分が授業を受けたい家庭教師を選んでください。
- **STEP 4 授業開始**
  家庭教師を選んだらそのまま受講開始をクリックして、授業が簡単スタートできます。

※今後新たなコースが設定される場合があります。 ※無料体験にお申し込み後、入会の前に無料体験授業を受けられます。継続をご希望される場合は、無料体験終了後に自動的に月4回コースへと移行します。別途手続きは必要ございません。

オンライン家庭教師 家庭教師Camp

お問い合わせ先 0120-671-511 受付時間／15:00〜21:00 (日曜・祝日のぞく)

ご利用をお考えの方は、ホームページをご覧ください。 https://kateikyoushicamp.jp 家庭教師Camp 検索

ena 広報誌

GAKU Vol.19

特別対談

ena 学院長・法学博士
河端 真一 ×

衆議院議員
自由民主党政務調査会長
デジタル社会推進本部・本部長
下村 博文

衆議院議員
デジタル改革担当大臣
平井 卓也

内閣官房参与・嘉悦大学教授
髙橋 洋一

デジタル教育特集

個別ena（K 家庭教師Camp）

ena小中学部

ena 企画本部（映像事業部）

ena 看護医療受験 新セミ・ena 芸大・美大受験 新美

その他 ena のデジタル化

「都立高映像講演会」を ena ホームページで公開しています

都立中で求められる作文

合格するための冬
ena 冬期講習会・正月特訓

第3回 教えて！
学院長教育相談

インターエデュ連動企画

私立校の魅力を徹底解説！

郁文館中学校・高等学校・グローバル高等学校
十文字中学・高等学校
聖徳学園中学・高等学校
文京学院大学女子中学校 高等学校
宝仙学園中学校・高等学校共学部 理数インター
目白研心中学校・高等学校

河端 真一
ena学院長／法学博士

京都市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業、一橋大学大学院博士課程修了。元一橋大学客員教授。大学入学と同時に学習塾を生徒5人で開き、大学卒業時には生徒1500人を擁する大手塾に成長させる。1976年株式会社学究社を設立、85年株式上場。2015年東証一部指定。東京都最大塾に成長し、自らの授業は「2か月で偏差値が20上がる」と謳われる。

世の中のデジタル化が進むからこそ、人を育てる教育の役割が重要なのです。

衆議院議員
自由民主党政務調査会長
デジタル社会推進本部・本部長
下村 博文

×

ena学院長・法学博士
河端 真一

自由民主党は菅政権の看板政策であるデジタル庁新設に備え、デジタル化に必要な法改正などの党内協議を一元的に担う組織として「デジタル社会推進本部」を新設。下村博文政務調査会長が本部長に就任しました。今回の学院長対談は下村博文政調会長にご登場いただき、デジタル化推進に伴う「日本が抱える課題」や「教育の在り方」などについて詳しくお聞きしました。

デジタル化による国民生活のメリットは？

河端　今、日本では「デジタル化」が大きな課題となっています。今日はその辺りを詳しくお聞きしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

下村　よろしくお願いします。

河端　さて、日本人の多くは日本を「先進国」だとずっと思っていました。それがコロナ禍により、例えば行政機関で感染者数を今時ＦＡＸでやりとりしていたことが発覚するなど、デジタル化が他国より大きく遅れていることが周知の事実となりました。その辺り、どうお考えですか。

下村　日本は20年程前に「ＩＴ国家」として世界の最先端を目指すと宣言しており、国民も日本のＩＴ化は進んでいるものと思い込んでいました。ところが実際は我々が想像する以上のスピードで世界のデジタル化の波は進んでおり、オンライン通信をはじめコロナ対策に伴う各国のデジタル事情が報道されることで、日本が立ち遅れていることが表面化してきたわけです。

河端　そうした背景もあり、菅内閣発足時にデジタル庁の新設と、平井卓也デジタル改革担当大臣の入閣が発表されたのですね。デジタル庁の設置は報道を通じて知っていますが、結局のところ我々のメリットは何なのかなど、よく見えない部分もあります。

下村　国民のみなさんにとってのメリットをご説明するうえで、わかりやすく具体的な例としては、マイナンバーカードが挙げられます。

河端　マイナンバーカードは、健康保険証や運転免許証と一体化される話もありましたが。

下村　今現在のマイナンバーカードの普及率は約20％です。実際の主なメリットといえば、身分証明書として使えたり、住民票や戸籍謄本などをコンビニ等で発行できたりするぐらいで、正直これでは少し物足りませんよね。そこでまず今年度中には健康保険証を、そしてできるだけ早い段階で運転免許証の

データをマイナンバーカードと連動させていきます。その最大のメリットが「デジタル化」による恩恵です。例えば病院の受付も今後は顔認証で自動化されていくでしょうし、今はマイナンバーカードを持っていても引っ越し等の際は、カード持参で元の役所と新しい役所に行くことが必要ですが、その手間が一気になくなります。つまり平日に会社を休まずにオンラインで引っ越し等の手続きも完了するわけです。こうした利便性は運転免許証の更新の際も感じられるでしょう。

河端　役所に足を運ばずにオンラインで各種手続きができるのは、働く社会人にとっては大きなメリットですね。

下村　さらに国民のみなさんが身近に感じられる例を挙げましょう。昨年の一律10万円の特別定額給付金についてです。国民への支援が早急に必要だと国会で議論されたのが3月のことでしたが、実際に給付されたのは早いところでも6月以降。支援が決まってから給付まで3カ月以上かかっているのです。例えば北欧ではマイナンバー制度が国民に浸透しており、そこに口座情報も入っているため、申請すれば翌日には給付金が振り込まれました。もちろん申請もオンラインです。このスピード感は何より大きなメリットだと思います。

河端　確かに給付金をもらえるのは有難いものの、その申請の手間であったり、タイムラグであったりは、少し不満を感じる部分もありました。また役所の方々がすべて手作業で申請書類を確認している姿にもデジタル化の遅れを感じさせられました。

下村　そうですね。もっと言えば、これは日本では賛否両論あるでしょうが、北欧のマイナンバー制度は、個人の所得や財産なども紐づいています。このことで所得に応じて必要な人に必要なだけの額の給付金を支給することが可能になるのです。日本でもコロナの影響で所得が減らない公務員に給付金は必要なのかとの議論もありましたが、そうした不公平さが解消されます。とはいえ、日本でも所得別の支給は仕組み的には可能でしたが、そのために膨大なお金と時間がさらに必要となったでしょうから、あのタイミングでの一律給付の決断は最善策だったと思います。

河端　デジタル庁の新設が今年の9月で、マイナンバーカードと健康保険証の連動がその前の3月ということは、デジタル庁の設置を待たずして、デジタル化の政策は進んでいくわけですね。

下村　デジタル化は、すべての分野において国民のみなさんが「便利になったな」と実感できる社会を作ることが大前提です。そしてそれは喫緊の課題です。まずできることから積極的に進めていくことが必要だと考えています。ぜひ新設される「デジタル庁」にご期待ください。

現代の日本が抱える教育の大きな課題

河端　今回のコロナ禍で、オンライン授業の対応をはじめ、教育業界におけるデジタル化の遅れが明らかになりました。

下村　教育業界の話で言えば、コロナに関係なく、もともと1人1台のタブレット配布は決まっていました。しかし休校措置がとられ、整備が行き届かない環境のなか、多くの生

下村 博文（しもむら はくぶん）

1954年群馬県生まれ。衆議院議員。元文部科学大臣。早稲田大学教育学部卒業。平成元年東京都議会議員に初当選。2期7年を務めた後、1996年第41回衆議院総選挙において東京11区より初当選（現在8期目）。2020年、自由民主党政務調査会長に就任。党内に新設されたデジタル社会推進本部では本部長を務める。自ら学習塾を立ち上げた経歴を持つなど特に教育分野に造詣が深い。著書に『9歳で突然父を亡くし新聞配達少年から文科大臣に』（海竜社）、『教育投資が日本を変える』（PHP研究所）などがある。

も活用できれば学習の相乗効果が生まれるはずですが、それぞれにWi－Fi環境が整っていることが必要ですし、特に家庭に関してはそうした環境の充実度にまだまだ差がありそうです。そうしたことにも今後は目を向けていく必要があります。タブレットだけを配布すれば終わりではありません。デジタルの拡大が、さらに教育の格差につながっては元も子もないですから。

河端　我々の塾だけでも環境整備にいろいろと調整が必要でしたから、全国規模となるとそのご苦労は大変だとお察しします。とはいえ子どもたちの未来のために絶対に必要な政策ですので、ぜひとも成し遂げていただきたいと思います。

下村　そういう意味では、このデジタル化によって、学校の概念も変わっていくのかもしれません。今の学校は戦前の軍隊方式、集団的な教育が核になっています。それはそれで高度経済成長期までは、司馬遼太郎の『坂の上の雲』ではありませんが、日本が定めた方向に向かって、国民一人ひとりが遅刻もしない、サボらない、やるべきことをきちんとするという画一的な教育が必要だったのです。しかし今や人工知能やロボットが人の仕事に取って代わろうという時代。ロボットは24時間働いても疲れませんし、工場の流れ作業などの単純作業はAIが得意とするところなので、必然的に人の仕事も変わってきます。人にはもっと人間らしい、クリエイティビティやホスピタリティの部分が求められるようになるのではないでしょうか。

河端　デジタル化によって子どもたちが目指す分野もこれまでとは異なるのでしょうね。

下村　それに関して興味深いデータがあります。OECD（経済協力開発機構）が2018年に実施した「生徒の学習到達度調査（PISA）」によると、日本の高校生は「人生の意義」に関する3つの質問「自分の人生には明確な意義や目的がある」「自分の人生に、満足のいく意義を見つけた」「自分の人生に意味を与えるのは何か、はっきり分かっている」において、74か国の中で最も否定的な回答だったそうです。74番目の最下位でした。その一方で、「最近2週間のうち次のことはありましたか？学校を無断で欠席した、授業をサボった、学校に遅刻した」という調査に関してはほとんど当てはまらず、71か国中で1番良い成績だったのです。つまり日本の高校生は、世界で最も真面目で遅刻も欠席もしない代わりに、将来に夢も希望もないということになります。これでは何のために勉強するのか、切ないですよね。

河端　それも画一的な教育の弊害かもしれません。そういえば以前、知り合いの外国人が修学旅行生の団体を見て「彼らは囚人か？」と聞いてきました。日本人はみんな揃っての集団行動は得意ですが、はみ出したり、とんがったりする個性に乏しいのです。これではクリエイティビ

徒児童の学びがストップしてしまったことから、タブレットの配布が前倒しされ、年度内にはすべての小中学校に届けられる予定です。

河端　enaでも全校舎でオンライン授業を実施しましたが、やってみてわかったことは、Wi－Fi環境の整っていないご家庭もまだまだ結構あることです。またパソコンやスマホはご家庭にあっても子どもが自由に使えるものは少ないことでした。

下村　その通りです。タブレットを学校だけでなく、家庭や学習塾で

ティは育たず、日本からGAFA（Google・Amazon・Facebook・Apple）は生まれないと思います。

下村　デジタル化はあくまでも手段のひとつです。これからはデジタル時代を支える人材を育てなければなりません。世の中のデジタル化が進むからこそ、人を育てる教育の役割が重要になってくるのです。

デジタル時代における日本の教育の在り方

河端　デジタル時代の日本の教育はどうあるべきだとお考えですか。

下村　キーワードは「個別最適化」だと思います。子どもたち一人ひとりの興味関心に合わせてサポートすれば、普通の集団学習よりも断然能力が伸びるはずです。平均的にみんなが同じことをやっていればよかった時代はもう終わりました。古い教育ではロボットや他国に太刀打ちできません。もっとその子が何をやりたいのか、やりたいことに対してもっとサポートできる環境、努力を続けていける環境が必要。その子の持つ能力を開発していくことこそが、本当の教育であるはずなのです。

河端　その課題解消にもデジタル化がカギになるのですね。

下村　現在の学校教育は教育指導要領に応じて、例えば「中2の2学期にはこの範囲を学ぶ」など、基本的な進度が決められています。ただ、その進度に合っている生徒がどのくらいいるのか、ついていけていない生徒はいないのか、さらには物足りなくもっと学びたい生徒もいるのではないか、といった部分は考慮されづらいのが現状です。紙の教科書と黒板を使った授業では、実際問題として個々の生徒に対応することは難しいと思われます。

河端　そうですね。

下村　しかし、タブレットを使えば、それぞれの子どもたちの能力に応じて、個別にできるところから取り組ませることも可能です。中には中2で高校レベルのことをできる子どももいるでしょうし、本当の意味で個々に合った学習が行えます。実は私も高校入学前の春休みに、高校数Ⅰの教科書の問題をどれだけ解けるか挑戦しました。2週間程度の期間でしたが全問解くことができたのです。

河端　それはすごいですね。

下村　今思えばすごいなと思いますが、そのときは高校入学後の授業に新鮮さを感じませんでした（笑）。ただ言いたいことは、タブレットによる個別授業が確立されれば、勉強をやりたい人はどんどん進められるし、学習意欲も高められるということです。

河端　確かに教育のデジタル化は大切ですが、やはりそこには教師という人間の存在は欠かせません。

下村　それはもちろんそうです。

河端　私が生徒たちを見ていて感じるのは、例えば算数が好きな生徒は、教えてくれる算数の先生のことが好きな子が多いように思います。つまり生徒の学習意欲には教える側の教師の個性や魅力も大切なのです。従来教育は一番人間的なもの。そういう憧れの対象が存在する環境が必要なのでしょう。

下村　どんなに勉強ができる子どもでも自分だけの力でどんどん勉強を進められる子は多くありません。やはりどんな先生と、どんな指導者と出会えるかは重要です。

河端　学習能力を高めるうえでも

教師の存在は大きいと思います。

下村　私が小学5年生のころの話ですが、家庭科の授業に必要な裁縫道具を家庭で作ってもらうという課題がありました。うちは母子家庭で貧しかったこともあり、母親に頼めないでいたのですが、ある日学校が終わって先生に呼び出されて、「お母さんは忙しくて裁縫道具を作る時間がないだろうから私が作ったのを使いなさい。私が作ったことは誰にも言わないで、そっと使うように」と言われたことがあるのです。今だと一部の生徒をひいきするのかと批判の対象となり、問題になることかもしれません。でも私はそういう先生の優しさが本当に身に染みたのです。今でもはっきり覚えているぐらいですから。

河端　それは一生心に残りますよね。

下村　昔は世の中に余裕があって、人の心にもゆとりがありました。一人ひとりの生徒に対してフォローしてくれる面倒見の良い先生がたくさんいました。

河端　今の時代は生徒も親も先生もみんなが忙しい。子どもが昔よりも孤独感を感じてしまわないか心配です。

下村　ただ忙しくてもその先みんなが幸せになれるのならいいのです。でもそうでないなら、今一度立ち止まって、ライフサイクルを考え直すことも必要かもしれません。私は今「日本Ｗｅｌｌ－ｂｅｉｎｇ計画推進プロジェクト」といって、今までのＧＤＰを基盤とする考え方ではなく、新たに「幸福度」という「ものさし」を通して、国民生活の向上を目指す取り組みにかかわっています。「子どもたちが幸せになるための教育とは何か？」「人々が幸せになるために必要な経済支援は何か？」といったことをこれからも追求したいと考えています。

学校の理念や仕組みも多様化していく時代

河端　不登校やいじめは今も社会問題になっていますが、これからオンライン授業が日常になれば、学校に行く必要がなく、自宅で授業を受けられるので、不登校もいじめもなくなると思うのですが。

下村　不登校は、学校に行くことが当たり前で、行かないことに問題があるという考え方が前提です。しかしコロナによって教育に対する価値観も変化しました。例えば大学に入学したのに1度もキャンパスに行けていない学生もいますが、それでもオンライン授業によって効果のある学習ができているとの報告もあります。学校に行くことがすべてではなく、オンラインによる自宅学習がしっかりと機能するのであれば、緊急時だけでなく平常時であっても単位を認めるとの考え方もできるはずです。

河端　なるほど。ただ大学生と小中学生とでは、状況も変わってきそうですね。

下村　その通りです。小中学生の場合は、各教科の学習も大切ですが、集団の中で過ごしながら人間関係を作り、協調性やお互いを思いやる心を育むことも必要なので、すべてをオンラインで済ますわけにはいきません。だからといって学校での授業がベストで、自宅にいるの

はダメだという考え方は違うと思うのです。

河端　やはりデジタル化によって学校の仕組み自体も変わりますか。

下村　そうですね。学校の仕組みも緩和すべきかもしれません。例えば、フリースクールのような組織も学校としてしっかり認可していくことも必要ではないでしょうか。毎朝8時に集団登校して、毎日15時まで集団授業を受ける。それに同調できない子はダメだという風潮を変えなければなりません。子どもたち一人ひとりに合った学び方の仕組みがあるはずなのです。

河端　これからの学校が掲げるべき理念は、学習塾の考え方に近づくような気がします。

下村　そうかもしれません。今後は日本でも「飛び級」のような制度が出てくるはずです。海外では日本でいえば中学生くらいの子どもが大学に飛び級で入ることができます。みんなが同じことをやらなくても良いのです。伸びる子はどんどん伸ばせばいいし、躓いている子には躓いたところからきちんと教えていく。一人ひとりに合った指導、これは数学や英語だけでなく、芸術系にも言えることです。絵を描くのが好きな子、音楽が好きな子、そうした本人の興味のある部分をもっともっと伸ばせる教育が理想です。

河端　わかります。多様性が認められる教育でなければなりません。

下村　東大でも「異能」を育てようとする動きがあります。不登校であったり、発達障害であったり、普通の学校に通うのは無理でも、そういう子どもこそ天才的な能力を秘めている可能性があることを研究しているのです。エジソンも今で言えば発達障害を持っていたと言われています。やりたいことだけをとことんやることで人類に大きく貢献する発明をしました。

河端　アインシュタインも今の受験では合格できませんよね（笑）。

下村　そうですね（笑）。フリースクールは既存の学校以外に選択肢があるよという考え方の象徴だと思います。不登校の子を学校に引き戻すだけが正解ではありません。フリースクールも資金面の補助があればもっと劇的に変われるはずです。実は文科大臣時代にも考えていたことなのですが、そのときは周囲から時期尚早と言われて実現できませんでした。あらためて取り組んでみたいと考えています。オンライン授業の浸透、タブレット配布の前倒しなど、教育業界に関してはコロナによってプラスに転じたこともあったと前向きに受け止めて、これからさらに教育のデジタル化を推し進めてまいります。

河端　今日はありがとうございました。

下村　ありがとうございました。

（対談日 2020年12月9日）

著書ご紹介

『教育投資が日本を変える』

（下村博文著、PHP出版社、2016）

社会のグローバル化・超高齢化の今こそ、教育再生が必要！前文部科学大臣として、教育行政に賭けた思いのすべてを語った渾身作。

『日本の未来を創る「啓育立国」』

（下村博文著、アチーブメント出版社、2019）

教えられた通りに学ぶことを良しとする「教育」から、人が持つ内的な能力を外に引き出す「啓育」へ変わるとき。予測できない時代の中でAIに仕事を奪われるのではなく、AIと共に働きながら生きていくための方法を語った作品。

デジタル庁が日本の社会を一気にバージョンアップさせます。

衆議院議員
デジタル改革担当大臣
平井 卓也

×

ena学院長・法学博士
河端 真一

今回の学院長対談には、デジタル庁新設という重大な役割を担う平井卓也デジタル改革担当大臣が登場。世界との差を埋めるべく日本のデジタル化を推進するために日夜活動されている平井大臣に、「デジタル庁の役割」「デジタル時代の教育」「これからの社会で求められる人材像」など、気になる話題について河端学院長が鋭く切り込みました。

デジタル庁新設の背景と期待される役割

河端　本日はよろしくお願いします。まず平井大臣には、何を置いても新しく設立されるデジタル庁についてお伺いしたいと思います。役所を一から立ち上げる経験はなかなか貴重ですよね。

平井　本当にそう思います。しかもまったく前例のない新しい役所ですから。巡り合わせとはいえ、政治家冥利につきます。

河端　ではあらためてデジタル庁新設の背景を教えてください。

平井　新型コロナウイルスによって人々の移動、活動が停止し、経済がここまで落ち込んでしまうことは、日本はもちろん世界中の国々にとっても想定外の経験でした。そして日本はデジタルの技術でそれらをカバーすることができなかったのです。特別定額給付金の10万円を給付するのにもかなりの時間とコストをかけてしまいましたし、学校も医療もすべてがコロナの影響をもろに受けてしまいました。その一方で多くの国はデジタル化の推進によってコロナの影響を最小化していたのです。

河端　そのことは我々も報道を通じて実感させられました。

平井　内情を言えば、日本人は世界のデジタル化の動向に気づいていませんでした。知らない間に他国はデジタル化によってものすごく便利な世の中を築いており、日本はそのことに今回初めて気づいたわけです。そこで日本の社会を一気にバージョンアップさせるために、デジタルの力を社会の隅々にまで浸透させていこうというのが、今回のデジタル庁の取り組みであり、使命です。

河端　新しい庁を作ると言っても、まずは何から取りかかるのですか。

平井　とにかく人・物・金ともに何も権限のないところからのスタートになるので、まずはどういう権限を持たせて、どういう予算を取り扱って、具体的に何をするのかということを考え、人・物・金に関する法律と基本方針を作ることから始めます。それを法案として国会に

提出し、法律によって各省から権限と予算と人をどんどん集められるようにするとともに、新しい定数の枠を取って、そこには民間からも人を入れられるようにします。若手官僚と民間のエンジニアとの合同チームが主力となって、デジタル庁は運営をスタートさせる予定です。

河端　よく耳にするマイナンバーカードと運転免許証や健康保険証を一体化する話も、徐々に対応していくのですか。

平井　マイナンバーカードに関しては既に取り組みを進めています。実は運転免許証についてですが、警察当局が情報を管理する際、47都道府県すべてで異なる管理システムが使われていたことがわかりました。

河端　えっ、都道府県ごとに管理システムが違うのですか。

平井　そうです。すべてバラバラのシステムで管理されていました。ですので、まずはそれらをワンクラウドに集める作業が必要になります。システム全部をひとつにまとめることで、ようやくマイナンバーカードと紐づけられるようになるのです。ワンクラウドにすべての運転免許証の情報を入れておけば、どこからでも免許の更新ができますし、違反のない人ならＷｅｂで講習を受けて、それだけで更新ができるようになります。

河端　それらはいつ頃に実現する予定なのですか。

平井　マイナンバーカードと健康保険証の紐づけは２０２１年の３月には実施されます。ただ運転免許証は、システムをひとつにまとめる作業があるので、もう数年かかりそうです。ただし、少しでも前倒しできるように進めていきます。（２０２４年度末までに実現する方針）

河端　国民としては、マイナンバーカードと銀行口座との紐づけについても気になります。

平井　銀行口座は希望する方のみ紐づけることにする予定です。まだまだ日本では政府に銀行口座を覗かれるのではないかという不安をお持ちの方が多いようですから。

河端　「財布」の中身を見られることに抵抗感があるのでしょうね。

平井　多くの方が誤解されているので申し上げておきますが、マイナンバーカードと銀行口座を紐づけたとしても、政府が国民の口座の中身を覗くことはできません。犯罪調査と税務調査等以外で、勝手に他人の口座の中身は見られないようになっているのです。そこに大きな誤解があります。銀行口座を紐づけておけば、万一の災害時などにおいても利便性が高く、それこそコロナの定額給付金のときも一瞬にして給付金が支給されたはずです。今までの日本の常識は世界ではもう非常識。役所に行く度に同じような書類を何回も書く、口座番号をその都度

平井 卓也（ひらい たくや）

1958年香川県生まれ。衆議院議員（7期）。自民党香川県連会長。上智大学外国語学部卒業。2020年９月、情報通信技術（IT）政策担当大臣、内閣府特命担当大臣（マイナンバー制度）のほか、新設されたデジタル改革担当大臣に就任。2021年９月のデジタル庁新設を推し進める。この他内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策）を歴任。インターネットを利用した選挙活動の解禁や、2015年に施行された「サイバーセキュリティ基本法」制定にも尽力した。

役所に持っていくなんてことは、これからはあり得ないことです。

河端　確かにマイナンバーカードを銀行口座と紐づけておけば何かと便利そうです。

平井　結局、自分の口座を隠したい人が多い挙句、毎年誰のものかわからない休眠口座が５００億円も出てきます。それらすべてを国が没収せざるを得なくなっているのは、非常にもったいない話です。いかに銀行口座の紐づけが便利であるかを国民のみなさんに知っていただきたいですし、ご理解いただきたいと思います。

すべてがデジタルでつながる社会の構築へ

河端　デジタル庁では、民間企業との連携や支援はどのように考えているのですか。

平井　例えば、システムを構築したり、国民にサービスを提供したりするデジタル系のベンチャー企業とどんどん協力していきたいと考えています。また民間企業が取り組むデジタル化に関しても、積極的に支援していくつもりです。さらには今回のデジタル庁のひとつの特長は国のシステムだけを見るのではなく、地方自治体のシステムと国が連携できるように、構造を変えていくことにあります。地方の話もしっかり聞きながらお手伝いしていく予定です。

河端　それは素晴らしいですね。

平井　これらを推し進めるには数々の規制改革が必要になりますが、そこは河野太郎行政改革担当大臣と私がタッグを組んで、例えばデジタル教育に不都合な規制があった場合は文科大臣を交えて３人で、いわゆる「２＋１（ツープラスワン）会議」を行って規制改革について話し合っていくことになります。

河端　ここまで国と民間や地方とが一緒になって取り組む動きは、あまり見られなかったことですね。

平井　国がここまで本気になって、基本となるインフラを整備するわけですから、民間企業にはどんどん積極的に活用していただきたいと思います。例えばマイナンバーカードの認証によって遠隔で銀行口座や証券口座を開設できるシステムは既にありますが、もっとありとあらゆるものがデジタル化でつながる社会を構築したいのです。マイナポータルなどをすべて安全性の高いオープンＡＰＩにして、民間サービスとつなげられるようになれば、非常に安心で便利なデジタル社会が構築できます。日本人は新しいことに慎重ですが、確実で安全なサービスが提供できるシステムだとわかれば受け入れられるはずです。こうした動きは民間企業にとっても大きなビジネスチャンスになると思います。

河端　ここで教育関係の話に目を向けますと、中国などでは何兆円という規模の予算を使って国がオンライン教育の設備を整えています。確かにオンライン授業をするだけならＺｏｏｍを使って誰でもできますが、例えばＡＩを駆使したシステムとなると国の後押しが必要です。

平井　私も中国の教育系のベンチャー企業の中身など、いろいろ調べてみましたが、想像を遥かに超えるぐらい進んでいます。試験問題の予想などは、大学生が何人も協力したうえにＡＩを用いており、あそこまでやられたらどんな試験でも合格できてしまいそうです。幼児

教育の段階から4人セットにして、ゲーム会社が作った教育ツールで学習するなど、能力開発に関しては、かなり思い切った政策を進めていますね。

河端　ただ中国は、そこに生まれる格差が問題です。

平井　そうですね。中国はある程度お金が使えて、優秀なポジションに就こうと思っている人たちにとっては、ものすごく多彩なチャンスが広がっていると言えますが、切り捨てられた人たちはそのままであるという貧富の差が激しく、ある意味そのことを社会自体が容認している部分もあります。そういう意味では日本が中国と同じように進めることは難しいでしょう。例えば全く逆の発想で、日本は誰も取り残さないという意味で、ＡＩが必要になってくるのかもしれません。

河端　とはいえ国が後押ししてくれる中国の仕組みは、我々にとっては心強く映ります。

平井　日本でも経済産業省が「ＥｄＴｅｃｈ」、文部科学省が「ＧＩＧＡスクール構想」で教育業界の支援を行っていますが、それぞれがうまく連携できていない印象です。そこが残念ですし、課題であると思います。

河端　まだまだ中国と日本のデジタル化の進み方には天と地ほどの差がありますね。

平井　ただここから日本は盛り返していかなければなりませんし、またそれができると考えています。そのためのきっかけとなるのがデジタル庁なのです。

日本の教育業界もデジタルで大きく変わる

河端　このコロナ禍で、例えば私立の学校ではＺｏｏｍなどを使ってオンライン授業をするところが多くありましたが、公立の小中学校では、ほとんどオンライン授業ができませんでした。

平井　義務教育課程におけるコロナ対策、そこが一番の問題です。結局学校に行かないと授業時間にカウントされないのでは、今後は大変厳しい状況になると思っています。今回のコロナ禍で学んだことは、少なくとも日々の学習はハイブリッドに対応すべきだということです。家での学習時間と学校で学ぶ時間とをバランス良く両立して、調整していくことが現場のこれからの仕事になります。

河端　日本は社会全体のデジタル化を進めることが急務ですが、日本の将来を考えたとき、教育の力で若い人材をもっと育てなければなりません。それこそＧＡＦＡを生み出すようなデジタル人材が絶対に必要なのです。ＧＩＧＡスクール構想で今年度中にタブレットが全国の小中学生に配布される予定とのことですが、タブレットが配布されることと、オンライン授業を充実させることは別の話ですよね。

平井　今はハードウェアを整えている段階です。１人１台のタブレットを配布し、学校までの光ファイバーを整備し、回線の容量を補正予算で付け足します。そのタブレットは家でも塾でも自由に使ってもらえるようにして、もしＷｉ－Ｆｉなどの設備がなければ貸し出せる準備も整えます。こうしたインフラ整備までが政府の仕事です。そこから先の教育の中身に関しては、やはり教育現場の方々に頑張っていただく領域だと考えています。

河端　学校の先生がもっと本気で取り組まなければ、なかなか進まないですね。

平井　デジタル化に関しては生徒の方が一歩先を行っていますからね。生徒はどんどんデジタルで色々な知識を学べるし、どんどん進んでいくのに、学校の現場だけが遅れている。学校の先生は今まで1人で多くの生徒を同時に教えることが当たり前でした。しかしデジタルの時代は、この生徒はこう、この生徒はこう、というように個々の生徒への対応が必要になってきます。さらには教材もデジタルでつながり、多岐にわたって学べる環境になると、ティーチングよりもコーチング的な指導が求められるのかもしれません。それがデジタル時代の新しい教育のカタチです。

河端　そうですね。個別に対応できることがデジタルの一番の強みですし。

平井　学習を先に進めたい子はどんどん進めばいいし、滞って困っている子は何故困っているかを理解してあげてそれに合わせて教えることもデジタルなら容易にできますから。

河端　個々を大切にする教育の重要性は下村政調会長もおっしゃっていて、フリースクールについても熱く語られていました。

平井　その子のことを考えて、その子にとってベストなソリューションを作っていくというように教育界全体が変わっていかなければなりません。ハンデのある人やいじめられている人に個別の配慮ができることがデジタルの良さなので、ぜひこれをもう一度教育現場の人たちにも考えていただきたいです。

河端　我々もその一端をお手伝いさせていただきたいところです。

平井　それはぜひお願いします。デジタル庁の大きなスローガンのひとつに「Ｎｏ ｏｎｅ ｌｅｆｔ ｂｅｈｉｎｄ」があります。「誰一人取り残さない」という意味です。フリースクールもそうですが、やはりそういう制度は認めていかないと誰かを取り残すことになってしまいます。学校の代わりに教育を提供できる場所があり、そこを求める子どもがいるのであれば、認可しても全く問題ないと思います。これまで日本の教育はデジタル面で世界から遅れていましたが、ここからはデジタルが日本の教育を大きく変えていくことになるはずです。

これから必要なのは AIを使いこなす人材

河端　先程ハイブリッドの授業の話が出ましたが、我々ｅｎａでも対面授業と映像授業を組み合わせた「ダブル学習システム」を展開しています。休校期間中に対応した映像授業の評判がよく、通塾が再開したあとも保護者の方々から「映像授業を継続してほしい」との要望があったのです。

平井　ｅｎａさんもまさに「生徒ファースト」で取り組まれていますよね。

河端　ありがとうございます。今回のコロナ禍の休校措置を経て、学習塾業界も完全にデジタルの時代に入りました。我々も本年8月より「家庭教師Ｃａｍｐ」という完全オンラインで個別指導を行う家庭教師システムを新しいサービスとして始めました。東大をはじめとする最難関大学に在籍する学生教師から好きな教師を自由に選べて、4コマ3800円で学べるシステムです。今の時代に合ったのか、かなり人気を博しています。

平井　それはいいですね。オンライン授業に対するハードルが各ご家庭でかなり低くなりましたから。確かにデジタルによって今まで以上の効

果を上げられる可能性もあるのだと思います。

河端　弊社には大きく分けて本部が５つあるのですが、それぞれの本部がベンチャー企業のようにデジタルの新しい事業にチャレンジしています。「家庭教師Ｃａｍｐ」もそのひとつですが、本社内に映像教材を撮影するための専用スタジオを設けるなど、デジタル時代に備えて積極的に取り組んでいるつもりです。

平井　これからも新しいことにどんどんトライしてください。コロナ禍における一過性のものではなく、デジタル化の波はもう止まりません。これから社会は大きく変わり続けると思ったほうが間違いないと思います。

河端　デジタル社会で求められる人材には、具体的にはどういった技術が必要になるのでしょう。

平井　一言で言えば「ＡＩを使いこなせる人材」が必要です。プログラミングすることをコードを書くと言いますが、これからはＡＩでもコードを書くことができる時代になります。ですからみんながプログラマーになる必要はないのです。むしろＡＩが書いたコードを確認し、それを使いこなして何か新しいものを作れる人材が求められます。日本もどんどんそういった人材を輩出していかなければなりません。

河端　海外ではこういった教育も進んでいるのでしょうね。

平井　そうですね。何と言っても日本は、ＯＥＣＤの調査によると学校現場におけるデジタル化のランキングが最下位ですから。今まで教育現場がデジタル改革というものに及び腰だったことは間違いないのです。ただし、子どもたちのポテンシャルは極めて高いですよ。先日、小学生のプログラミングコンテストの決勝に招かれ、Ｗｅｂを通して拝見したのですが、明日にでもプロのエンジニアとして仕事を請け負えるレベルの子がゴロゴロいました。心強かったですね。

河端　確かにｅスポーツの分野でも日本の子どもたちは世界大会などでどんどん優勝していますからね。ただプログラミングコンテストもそうですが、現状はそこまでで成長が止まってしまっている印象です。そうした高いポテンシャルが社会にまで上手くつながっていく仕組みが日本には欠けている気がします。

平井　まさにその通りです。ただそれができれば、日本は必ず世界を追い越すことができると信じています。

河端　それは力強い、夢のあるお話ですね。

平井　そのために、国民みんなの気持ちを変えさせるために、デジタル庁の存在が大きいのです。デジタル庁はそういう意味で社会全体のデジタル化を国民目線で進めるための役所だと言えます。

河端　今日は興味深いお話をありがとうございました。

平井　精一杯取り組んでいきます。こちらこそありがとうございました。

（対談日2020年12月10日）

デジタル化の推進は大切ですが、その恩恵は国民のためにあるべきです。

内閣官房参与・嘉悦大学教授
髙橋 洋一

×

ena学院長・法学博士
河端 真一

元財務省官僚の経済学者であり、現在は嘉悦大学教授、さらには現在、菅政権で内閣官房参与も務められている髙橋洋一氏。大蔵省時代に国税庁のe-TAXを企画・設計した経験もあるほど、デジタルやIT分野にも詳しいという多才な髙橋氏に、そのユニークな経歴をお聞きするとともに日本が抱えるデジタル化の課題についてお話しいただきました。

大蔵省から政治の世界へ。歴代首相に認められた手腕

河端　今日はデジタルのこと、政治のことなどいろいろとお聞きしたいのですが、まずは髙橋さんのとても興味深く、素晴らしい経歴を読者の方々に紹介したいと思います。大学は東大の数学科を卒業されていますが、数学の勉強自体は全然していなかったとか。数学は元々得意だったのですか。

髙橋　物心ついたときから数学は好きでした。自然と理論が頭に入ってくる感じで、中学生の時には大学のテキストが読めたほどです。中学の数学の先生は私が教室にいるのを嫌がっていたようでした。高校時代になると数学の先生に「お前は授業に出なくていい」と本気で言われてしまいました。私の行った小石川高校は単位制の学校で、自由な校風だったので、数学の授業中は授業に出ずに公園でボーッと空を見て過ごしたり、解けない問題はほとんどなかったので、自分で超難解な問題を考え雑誌に投稿したりしていました。

河端　そんな髙橋さんが東大の数学科に進むのは納得ですが、東大を出た後に大蔵省（現・財務省）に入られたのは意外です。大蔵省は法学部か経済学部で派閥があるというイメージですから。

髙橋　確かに東大法学部出身者が圧倒的に多いです。5人いれば4人が東大法学部で、残り1人が経済学部といった感じでしょうか。数学科出身は当時私が大蔵省歴代で3人目でしたが、私で懲りたのかその後は1人も採用されていません（笑）。当時は「変なやつが入ってきた」とよく言われたものです。

河端　ところがその後、髙橋さんは2001年の小泉内閣発足時に突然政治の世界に足を踏み入れられるわけですが、どのような経緯があったのですか。

髙橋　小泉内閣に民間から経済財政政策担当大臣として竹中平蔵氏が入閣され、私は竹中さんの補佐官を務めさせていただきました。実は竹中さんとは1982年に同じ

大蔵省の職場で仕事をしていたご縁がありまして。私は大蔵省財政金融研究所に人事異動し、そこに竹中さんが当時の日本開発銀行から出向されてきたのです。それ以来20年近いお付き合いでしたが、大臣になられた直後にご挨拶に行ったときに「手伝ってよ」と言われて、軽い気持ちで「いいですよ」と返事したら、そのまま決まってしまいました。人とのご縁は本当に不思議なものだと思います。

河端　小泉内閣ではどのような業務を担当されたのですか。

髙橋　日本道路公団の改革や政府系金融機関の統合、さらには郵政民営化などにも携わりました。

河端　小泉内閣の代名詞でもある「構造改革」にも深くかかわられたのですね。そうした手腕が買われて、続いての安倍内閣でもお声がかかったのでしょうか。

髙橋　当時官房長官だった安倍さんに「自分が首相になったら付いて来てくれ」と直々にお願いされました。私は公立大学への就職が決まっていたのですが辞退し、安倍内閣をお手伝いすることにしたのです。いわゆる第1次安倍政権の間、内閣参事官として、財政だけでなく内政も外交も含めていろいろな面で安倍元首相をサポートさせていただきました。

河端　第2次安倍政権でもポストには就かなかったものの、度々安倍元首相から相談を受けていたとお聞きしました。

髙橋　もう安倍さんとは長いお付き合いですから。

河端　そして今回の政権交代では、菅内閣で内閣官房参与のポストに就かれました。菅首相とも元々お付き合いはあったのですか。

髙橋　実は菅首相とも長い付き合いです。第3次小泉改造内閣で竹中さんが総務大臣になられたとき、副大臣を務められたのが菅さんでした。ですから補佐官の私と副大臣の菅さんは、年中ずっと一緒に仕事をしていた関係です。今だから言えますが、竹中さんは、例えば人事に関することなどは、ほとんど菅さんに任せていたことを覚えています。

河端　数々のエピソードをお聞きしていると、歴代の首相から大きな信頼を得られている髙橋さんのお人柄が伝わってきます。

お金を集める時だけでなく支給時の手続きも簡略化を

河端　さて、本題の「デジタル」をテーマにお聞きしたいのですが、何と言っても今回の菅政権の目玉政策のひとつにデジタル庁の設置があります。髙橋さんはどう見ていますか。

髙橋　私の知っている限り、平井大臣は自民党の中で最もデジタルの分野に詳しい方です。そういう意味では適材適所の人選だと思います。ただ平井大臣おひとりが頑張っても前には進まないでしょう。党内のデジタル方面に明るい人材を上手く使っていけるかどうかが課題だと思います。

河端　最近デジタルトランスフォーメーション(DX)という言葉をよく聞きます。単なるデジタル化ではなく、デジタル革命とも言える大きな取り組みだと思うのですが、政府から聞こえてくるのは、各種手続きの簡略化だったり、ハンコの数を減らすことだったりするのですが、それが本当にDXなのかと考えてしまいます。

髙橋 洋一（たかはし よういち）

1955年東京都板橋区生まれ。株式会社政策工房代表取締役会長。嘉悦大学教授。東京大学理学部数学科・経済学部経済学科卒業。博士（政策研究）。1980年に大蔵省（現・財務省）入省。大蔵省理財局資金企画室長、プリンストン大学客員研究員、内閣府参事官等を歴任。小泉政権・第1次安倍政権ではブレーンとして活躍。2008年、『さらば財務省』（講談社）で第17回山本七平賞受賞。2020年10月の菅内閣発足時に内閣官房参与に任命される。『日本の大問題が面白いほど解ける本 シンプル・ロジカルに考える』（光文社新書）、『「NHKと新聞」は嘘ばかり』(PHP新書)など、著書多数。

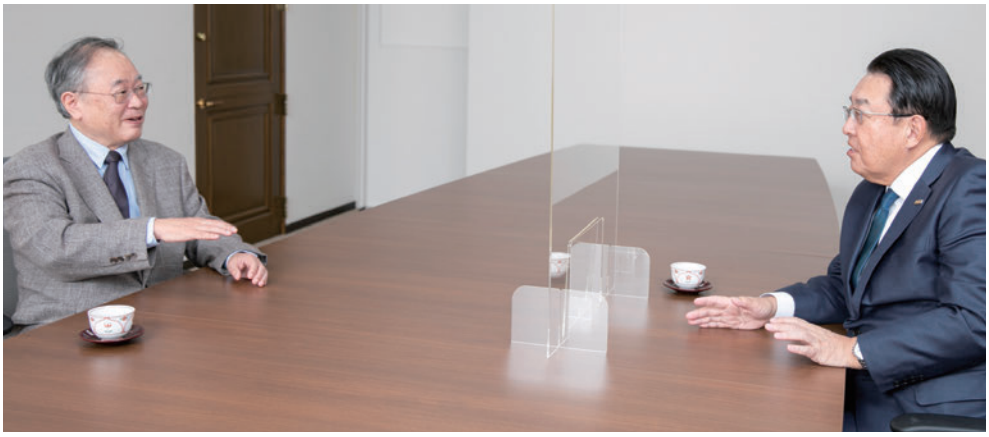
髙橋　確かに頭ではわかっていても行動が伴っていない部分はありそうです。

河端　経営者の立場からすると、DX＝新製品なのです。デジタルを活用した新しい製品を世に問うて、それがしっかりと支持を得て、新製品として売れる。これがデジタル革命の基本的スタンスではないでしょうか。

髙橋　私自身プログラミングができるので、大蔵省時代に国税庁の長官から依頼されてe-TAXのシステムを作ったことがあります。e-TAXは本人認証とお金のやりとりだけなので、比較的簡単にプログラムが組めるのです。そんな「プログラムの観点」から見れば、DXが注目される今の時代は、大きな変革期であり、大きなビジネスチャンスでもあります。これは河端社長の「経営者の観点」でも同じ見解だと思います。

河端　ある意味、当たり前の発想だと思うのですが。

髙橋　それが簡単に行かないのが政治と官僚の世界。e-TAXを作ったとき、なぜ大蔵省や国税庁がシステム構築を私に依頼したかと言えば、お金を集められるからです。民間から政府へお金が流れる仕組みを簡略化するのがe-TAXでしたから。ただこの流れを逆にすれば、



例えば新型コロナで問題になっている補助金の申請シートなどもすぐに作れてしまいます。つまり補助金を国民に支給するシステムも簡略化できるはずなのです。色々な省庁でこうしたシステムを導入すれば、世の中の多くの手続きが簡単で便利になると、私は昔から主張してきたのですが、省庁間の縦割りのしがらみなどもあって実現に至っていません。

河端　確定申告もそうですが、お金を受け取るための手続きはやたらと面倒に感じます。わざと難しくしているのではないかと勘繰ってしまいます。

髙橋　お金を集めるのを簡単にするのなら、お金を支給するのも簡単にしないと。申請のための面倒な手続きは、やはりお金を出したくない気持ちの表れなのかと私も思います。こういうことはサービスと考えたほうがいいと思います。もともとe-TAXも税金を簡単に徴収するというサービスをシステム化しただけ。システム化すれば国民の利便性も上がるはずだとの感覚で作ったものでした。

河端　まさに私の言う「新製品」と同じ考え方ではないでしょうか。

髙橋　そうですね。デジタルがもたらす恩恵は国民のためでなくてはなりません。DXなどと大上段に構えなくても、既存の簡単なシステムでも国民の生活を利便化することは可能なはずです。平井大臣にはぜひとも積極的に新機軸を打ち出していただきたいと思います。

デジタル化こそが日本の働き方改革を進める手段

河端　今回のコロナ禍を通じてはっきりしたと私が思うのは、オンライン授業やオンライン診療などは、我が国ではまだなかなか難しいという現実です。

髙橋　残念ながら日本のデジタルへの取り組みは、諸外国からかなり遅れていますからね。

河端　やはり我々にとって注目すべきは教育業界になりますが、オンライン授業は私立ではほとんどの学校

で対応したようですが、公立の小中学校はほとんどができていなかったようです。

髙橋　うちの大学でも講義をオンラインでやることに反対する先生はいます。対面授業こそが授業であると。私もゼミぐらいは対面でも良いと思いますが、大教室で行う講義はほとんど教師が一方通行で話す形ですからオンラインで十分なはずだといつも言っています。

河端　映像授業は我々も取り入れていますが、対面授業とオンライン授業をうまく使い分けることは大切ですし、これからはそうしたスタイルが必須となるはずです。

髙橋　それとうちの大学もそうですが、例えば中国の留学生がいて、コロナの影響で来日できていない学生がいます。それでもオンラインなら中国からでも授業を受けることが可能で、これは大きなメリットです。さらにアーカイブに残しておけば、分からない箇所は何度でも繰り返して見られるので理解度も高まります。

河端　確かに何度も見直せて復習できる点は、オンラインならではのメリットです。本人に学ぶ気があって向学心があれば、オンラインでも問題なく学べます。

髙橋　本当にそう思います。

河端　ｅｎａではオンラインによる映像授業を積極的に推進しています。業界でも一番進んでいると自負していますが、小中学部や大学受験部など、ブランドごとにそれぞれに適した映像授業のスタイルを考えながら展開しています。ベンチャーがそれぞれ一気に立ち上がったようなイメージです。それらもすべて生徒たちの効率的かつ効果的な学びの実現を目指した成果と言えます。

髙橋　オンライン授業には、まだまだ可能性があると私も思っています。映像教材の準備が大変だと考えている先生方も多いようですが、普段からテキストなどを独自で用意している先生こそ、実はオンラインの方が楽なんです。板書の代わりにパワーポイントでどんどん授業を進めていけますから。逆にテキストを準備せず話すだけで講義している先生がオンラインだと苦しんでいます。

河端　そうでしょうね。分かる気がします。

髙橋　デジタル化の話で今一番身近な例が免許証の更新です。教習所の先生方はオンラインではまともに講習が受けられない、試験ができないなど、いろいろとデメリットを挙げてきますが、講習はそれこそ大学のオンライン授業と同じですし、試験に関しても授業中に実施することも可能です。私も授業中に理解度テストを毎回行いますが、授業を真面目に聞いている人は確実に答えられるので、むしろこちらの方が意義もあると思います。

河端　授業をした直後の理解度チェックには特に有効だと思います。我々も英語の単語テストなどをオンラインで行い、タブレットで解答してもらいますが、そうすると何千人対象でも即時に結果を集計できます。正答率を分析し、保護者様にもオンタイムでお子さんの結果をフィードバックできるので非常に好評です。

髙橋　将来的にデジタルやＡＩに人間の仕事が奪われると警鐘を鳴らす人もいますが、前向きに考えれば、デジタル化は今世の中で問題になっている働き方改革を一気に進めるチャンスとも言えます。デジタル化を生かすことで、日本の人口減少問題の解決にもつながるかもしれません。人間が人間らしい生活をするためにもデジタル化は必要ですし、最も良い手段だと思います。

河端　なるほど。デジタルとうまく付き合うことができれば、我々の生活はもっと充実するのかもしれません。またそうしていかなければならないと思います。今日は興味深いお話をありがとうございました。

髙橋　私も楽しかったです。ありがとうございました。

（対談日2020年11月24日）

enaのデジタル教育特集

ｅｎａでは、各ブランドで映像授業を中心としたデジタル教育を推進しています。
今回の特集では各部の責任者にこれまでの取り組み、それから今後の展開について話を聞きました。

個別ena 家庭教師Camp

個別指導本部では、昨年8月よりオンラインでの個別指導サービス「家庭教師Ｃａｍｐ」をスタートしました。この家庭教師Ｃａｍｐについて、個別指導本部の責任者、河原圭一本部長に話を聞きました。

家庭教師Ｃａｍｐを始めたきっかけ

Q まず家庭教師Ｃａｍｐを始められた経緯をお伺いしたいと思います。

河原 やはりコロナの影響があります。コロナ禍でオンライン授業を進めていく中で、これからはオンラインの授業が日常に根付いていくということを感じました。ならばもっと手軽に自由に気楽に使えるものができないかという発想からスタートしました。ちょうどその頃、オンライン英会話のサービスが人気になっていましたので、その家庭教師版を作ったらどうだろうか、という話が出たのがきっかけです。

個別指導本部長　河原圭一

Q どのくらいの期間で作り上げたのですか？

河原 4月、5月からイメージを作り、仕組みが出来上がるまでに3ヶ月程かかりました。構想の段階を入れても4ヶ月くらいです。

家庭教師Ｃａｍｐのポイント

Q 他のオンライン家庭教師と違う家庭教師Ｃａｍｐならではのポイントは何ですか？

河原 一番のポイントは思い立ったその場で好きな先生を選べるというところです。他のオンライン家庭教師は、通常の家庭教師と同様で、あらかじめ曜日や時間、先生が固定されていて、オンラインで指導するというものです。家庭教師Ｃａｍｐは、例えば家で勉強していてわからない問題があったときに、お気に入りの先生を予約してその場で教えてもらうという使い方ができます。

Q 他の家庭教師だと時間は50分や90分という時間設定が多いと思うので、25分というのは画期的ですね。

河原 限られた時間の中で凝縮した形でやるということにメリットがあります。わからない問題をピンポイントで手軽に聞くとなるとむしろその時間がピタッとはまると思います。なお、2コマ連続で50分続けて受講するという使い方もできます。

Q 実際入会した方々はどのような使い方をしているのですか？

河原 ｅｎａ生の場合でいうと、校舎で習っているテキスト等でわからないところを教えてもらう、というのが主な使い方です。中には、ある学習内容を系統立てて勉強したいというリクエストもあります。その他にも都立中及び私立難関中の学校別対策や、単元学習講座や都立高対策等のコンテンツも提供を始めたところです。様々なニーズに応えられるように今後もコンテンツの提供を進めていきます。

Q それだと25分だと難しいように感じるのですが。

河原 25分を想定したオリジナルのテキストを作成しています。内容が豊富な単元については分割して対応しています。

利用者の声や担当教師について

Q 現在の利用者の声はいかがでしょうか。

河原 現在利用者に評価とレビューをつけてもらっているのですが、ほとんどの方から大変良いという感想をいただいています。先日集計した直近126件の書き込みでは、5段階評定で全教師の評

＼利用者・保護者の声／

- 図など絵をかきながら説明してくださるので、とてもわかりやすく、つまずいたときにはどこにつまずいたかを見てくださるので、安心して進めることができました。また、できている部分は言葉で伝えてくださり、苦手科目に対しての敷居も下がったように思います。
- 解説が丁寧で、良く理解できました。また、ポイントも教えてくれたので勉強しやすくなりそうです。板書も見やすかったです。
- 25分という短時間ですがとても良かったです。本日はenaのテキストを解きましたが今度は学校の課題の指導もお願いしたいと思います。
- 紙や、ホワイトボードで教えてくださるのではなく、Zoomの画面上で教えてくださるので、文字や図がとてもきれいでわかりやすく、よくわかりました。都立中の入試の時、どうすればいいかも教えてくださり、受験（検）への不安も消えました。

定平均が4・96でした。特に教師の質については満足していただけているのではないかと自負しています。

Q 家庭教師Ｃａｍｐの先生はどんな先生なのでしょうか。

河原 東京大学をはじめとする最難関大学在籍の現役の大学生、大学院生です。約65％が国公立大学生、そのうち約20％が東大生です。ホームページでは教師の動画やプロフィールもご覧いただける他、家庭教師ブログでは、教師の人柄や趣味などを知ることができるので、気に入った先生を選んで予約してもらうことができます。

Q 大学生の家庭教師の強みは何でしょうか。

河原 大学生や社会人、専任教師などそれぞれの良さがありますが、大学生の良さは、自分が受験をしたばかりなので、専門分野以外でも幅広く指導ができるというところです。また、生徒と年齢が近いので親しみやすさも感じてもらえるのではないかと思います。

Q 家庭教師Ｃａｍｐの教師の中には東大生も多く在籍していますが、彼らの教える力はどのように感じられますか？

河原 初見の問題に対しては、特に東大生の強さが出ると感じています。事前に準備をしていない問題の指導をいきなりお願いされても対応できるのが、彼らの強みだと思います。また、幅広くどの教科でも対応できるという点も強いですね。一般的に理系の先生だと国語や社会の指導が難しい、文系の先生だと受験生の数学指導は難しいという方もいますが、家庭教師Ｃａｍｐの場合は、東大以外でも世の中で最難関と言われる大学に通っている大学生だけが指導をしているので、幅広く指導できる教師が揃っているという点は他にない強みだと思います。

サービス開始からの変更点や今後の取り組み

Q お値段や受講方法を変更されてからの反応はいかがですか？

河原 1回単位でも受講できるという方法に変更したときの反響が特に大きかったですね。特にｅｎａ生は月4回でも受けられるかわからないという生徒が多かったので、1回でも2回でも受けられるときに受けただけの金額のみで利用できるようになったことが好評です。

Q さらに今後お考えのことはありますか。

河原 オンライン指導のインフラとなるべく、コンテンツをさらに充実させていきます。また、認知度を高めるために、さらに告知に力を入れていく予定です。内容や要項を伝えるだけではなく、指導している教師たちの人となりを知っていただき、より親近感を持っていただきたいと考えています。そこで、12月末よりＹｏｕＴｕｂｅチャンネルにて「家庭教師Ｃａｍｐチャンネル」を始めました。今後、先生たちの紹介や受験期の過ごし方などさまざまな情報を発信していきます。ぜひご覧下さい。

ホームページでご覧いただけます

◆教師ブログ

教師のブログをご覧いただけます。

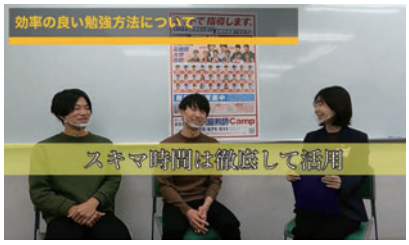
◆教師の動画とプロフィール

各教師の動画とプロフィールをご覧いただけます。

家庭教師 Camp チャンネル

◀撮影風景

第1回 東大生に聞いてみた「効率の良い勉強方法」



小川裕輝 先生　吉田凌大 先生

https://www.youtube.com/channel/UC7wu2uGz5FftMjj1p4kSM7Q

最後に

家庭教師Ｃａｍｐは2コマ無料で体験ができます。まずは気軽に登録していただき、ご自身に合った方法・内容でご利用ください。

ena 小中学部

対面授業＋映像授業の「ダブル学習システム」を始めるきっかけになったコロナ禍での映像授業への対応、来年度から新しく開校予定の「ｅｎａオンラインクラス」など、ｅｎａ小中学部での映像授業の取り組みについて、小中学部の責任者、栗﨑篤史本部長に話を聞きました。

コロナ禍での対応と「ダブル学習システム」ができるまで

Q 小中学部で映像授業に取り組むことになったきっかけは何ですか？

栗﨑 きっかけは昨年2月の終わりに政府から出された小中学校の休校要請です。生徒たちがｅｎａの校舎に来ることができなくなったのでｅｎａ本部のスタジオで元々対面で予定されていた授業をすべて撮影して映像を配信しました。初めてのことで試行錯誤ではありましたが、3月中は生徒たちが学校にも塾にも行けない状況下、勉強を止めるわけにいかないので、急ピッチで準備・撮影・配信をしたのがすべての始まりでした。

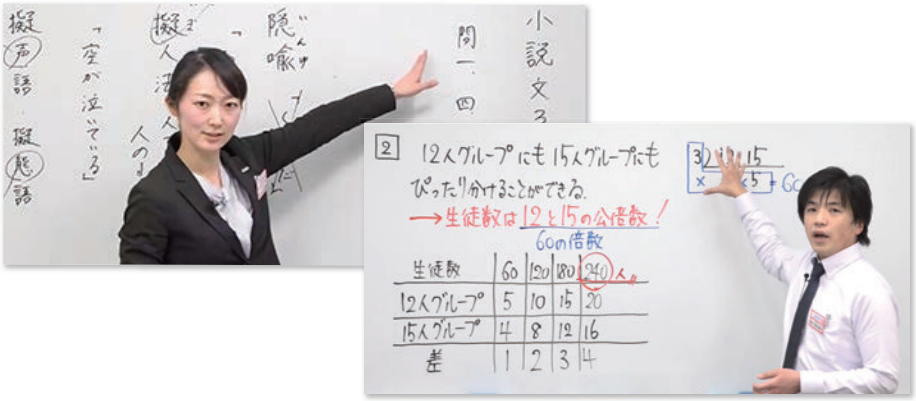
小中本部長　栗﨑篤史

Q それ以前は映像授業をやろうという動きはなかったのですか？

栗﨑 休校要請・緊急事態宣言が出る前の約1年間は模試の解説動画をｅｎａホームページ上で視聴できるようにする等、部分的に映像を使うことはありましたが、それまでは本格的な映像授業を行ってはいませんでした。

Q その後「ダブル学習システム」ができるまでの経緯を教えてください。

栗﨑 まず前述のように3月に単方向映像を配信し、その後4月に緊急事態宣言が出た後、Ｚｏｏｍを使っての双方向映像授業を開始し、自宅にいながら普段ｅｎａで受けている授業を受けられるという状態にしました。「ダブル学習システム」は緊急事態宣言終了後、6月から生徒たちが学校や塾に通うことができるようになったときに生まれたものです。対面授業のみの体制に戻してもよかったのですが、映像授業はわからないところを何度でも確認できて、復習するためのツールとしても好評だったので、対面授業再開の傍ら、単方向映像配信は引き続き1年間通してやっていくことになりました。ｅｎａで対面授業をしっかり受けて、家に帰ってわからなかったところを映像で見るといったように、二重で学習ができるスタイルである「ダブル学習システム」が、現在のｅｎａの指導スタイルになっています。



Q コロナ禍での急な対応だったと思いますが、ご苦労されたのではないですか？

栗﨑 休校要請が出てから映像授業配信開始まで、わずか5日間しかなかったので正直あせりました。5日間ですべての仕組みを整える必要がありましたが、本部でも校舎でも配信準備や撮影、ご家庭に視聴のご案内をお送りするなどそれぞれ迅速に対応をした結果、トラブルなく配信することができてほっとしました。また、本部や校舎の努力もありますが、合わせて保護者様がとても協力してくださったことが大きいと思います。ご家庭によっては映像授業を見る視聴環境がない、保護者様がご家庭の機器を使ってテレワークをするため子どもが使えない等色々な問題がありましたし、ご家庭にお願いすることも多々ありました。しかし非常事態の中で生徒たちの勉強を止めないように、保護者様からたくさんのご協力をいただけたことが、迅速に対応できた大きな要因であったと考えています。

Q 他塾の状況はいかがでしたか？

栗﨑 他塾では3月中は休校するといった対応をとられているところが多く、映像授業の体制ができたのが4月の半ばや5月だったようなので、ｅｎａは群を抜いて対応がはやかったと思います。

Q 保護者様や生徒の反応はいかがでしたか？

栗﨑 映像での対応は大好評で、たくさんのおほめの言葉をいただきました。

＼利用者・保護者の声／

学校で友達に会えない分、双方向授業は先生や塾生の顔を見ることができ、嬉しく楽しい気持ちで受講できたことと、1人で自宅でやるよりライバルを意識することができ、気合が入りました。

巻き戻しできるのがいいですね。聞き逃したときは巻き戻して視聴しています。授業のテンポも良く、子どもはよくノートを取っています。

都合の良い時間に、わからなければ止めて授業を受けることができるので子どもは大変助かっているようです。

いつでも不明点を確認できる、この贅沢さ！！本当にありがたいです。また、子どもに指導するときに、enaではどのように教えているのかを保護者が知り、勉強するのにも良い教材です。

ena映像授業　3つの柱

Q 単方向・双方向・ライブ映像授業それぞれの特色を教えてください。

栗崎 enaの単方向映像授業は、普段生徒たちが使っているテキストを使い、教師がカメラの向こうに生徒たちがいるということを想定して授業を行う録画授業です。enaの教師たちのなかでも特に力量のある教師を中心に、普段とまったく同じ授業を本部のスタジオで撮影して配信しています。

双方向映像授業は、4月の緊急事態宣言から5月までの約2か月間で主に行っていたZoomによる授業です。いつも教えてもらっている先生・いつものクラスのみんな・いつもの教え方で、「いつもの授業」ができるのが大きなメリットです。

ライブ映像授業は夏期講習頃から行っていますが、教師1人に対して500人を超える生徒がライブで繋がる、単方向と、双方向、それぞれのメリットを活かしたものです。

双方向映像授業と違い生徒の表情が画面に出たり画面を通しての会話ができたりはしないため、単方向映像授業の要素が強いですが、「この問題の答えはア～エの中でどれか。投票しましょう」というような投票システムや、教師やその他のサポートメンバーにメッセージを送るチャット機能など、双方向映像授業のような要素もあります。

双方向映像授業

Q 単方向映像授業や双方向映像授業とは違い、ライブ映像授業は映像の特性を生かして戦略的にリリースしたのですか?

栗崎 本来40日間程ある夏休みが今年度は20日間程と短縮されたため、enaの夏期講習カリキュラムを消化するにはどうするかと考えた結果生まれたものです。

Q それぞれの映像授業は趣向をこらしたものなのですね。

栗崎 それぞれ必要に迫られて作ったものではありますが、保護者様からもご支持をいただき、対面授業再開後も、継続して活用していくことにしました。例えば単方向映像授業は、機器を充実させ現在はカメラの音の性能をより良いものにする等、初期の段階と比べるとクオリティが上がっていると自負しています。現在ではこの3つの映像授業はenaの映像授業での指導の根幹となっています。

ライブ映像授業

Q 双方向映像授業と教室での対面授業に違いはありますか? 映像だからこそ気を付けていることはありますか?

栗崎 一体感はほぼ同じです。ただ違うところは生徒たちの表情が読みにくいというところです。実際に対面で授業をするときは生徒たちの表情を見て理解しているかを確認し、説明するだけでなく間を取りながら発問し進めていきますが、映像では表情が読みにくい分、普段よりも十分に間を取る、語りかける、生徒たちから発言させること等に気を付けています。声のトーンだけでなく表情を大げさにしないとよく理解できないこともあるようなので、全員が理解したか確認するときは決まったジェスチャーを使う、マスクの上からでも表情がわかるように目で語る等の工夫をしています。

Q 撮影スタジオはコロナ禍以降構えたのでしょうか。

栗崎 そうですね。映像授業を配信すると決めた後すぐに突貫工事で会議室をスタジオに作り変えたものです。本社のスタッフがそのスタジオで撮影・編集・配信しています。現在月に約250本の映像授業を撮影しています。

撮影スタジオでの授業撮影風景

ｅｎａオンラインクラスについて

Q 今年3月に「ｅｎａオンラインクラス」の開校を予定しているということですが、セールスポイントは何ですか？

栗﨑 一番のセールスポイントは、都立中でも都立高進学指導重点校でもＮｏ．１の実績を持つｅｎａの指導を自宅で受けられるという点です。ｅｎａのテキストを使ったｅｎａの教師の授業、ｅｎａの小テスト、学力判定テストの受験、面談や保護者会にいたるまで、ｅｎａで行っているサービスすべてをオンライン上で受けることができます。

Q オンラインクラスを始めるきっかけは何でしょうか。

栗﨑 これまで対面授業が塾の王道だと考えてやってきましたが、コロナ禍以降はオンラインのサービスのニーズを強く感じています。そこで対面授業は続けていきますが、同じｅｎａの授業をオンラインで受けられるサービスを新しく始めることにしました。ただ、内容は現在のｅｎａの授業でやっているものと同じです。新しい教え方をするということではなく、受験の王道である漢字テストや単語テスト、計算テストなどの昔から取り組んでいる基本は絶対に失うことなく続けていきます。また、テストの採点システムについてもオンラインでのやりとりを活用した新しいシステムの導入を予定しています。

Q 双方向映像授業のようなイメージでしょうか？

栗﨑 単方向で映像授業、双方向で演習というイメージです。例えば小6生であれば、週4日画面上で集まり、授業とｅｎａタイム（双方向での演習や伝達事項のやりとり）を受講してもらうことになります。

Q 対面授業は一切せず、単方向・双方向のメリットを活かしつつ、面談などもすべてオンラインでできるということですね。

栗﨑 そうですね。オンラインで友だちとおしゃべりするイメージを持っていただければいいと思います。対面でなくても楽しいと感じてもらえる授業を目指しています。映像授業を配信するだけではなく画面上で集団授業のいいところである「みんなで集まって切磋琢磨してやっていく」ということを体現しているのがｅｎａオンラインクラスです。

単方向映像授業

ena全校から選抜された教師陣による「合格のための指導」をご自宅で。

授業は単方向映像授業で行います。授業自体は録画されたものを視聴しますが、決められた時間割で授業を受け、その時間帯はクラス担任が映像越しに受講生の様子を確認します。ただ映像を流すだけの授業ではなく、クラス担任が映像を通して進行管理を行う授業です。

enaタイム

オンライン会議システムを利用した、クラス担任による双方向の指導時間です。

各授業には必ず ena タイムの時間を設け、各種伝達事項や授業のポイント説明などを行います。双方向でのやり取りとなりますので、生徒がクラス担任への質問なども行える時間です。クラスが一体感を持って合格へと向かうために、しっかりとコミュニケーションを取りながら進みます。

※enaオンラインクラスのご入学に際して、PCやタブレット・スマートフォン等視聴に必要な機材、およびご自宅でのインターネット環境が必要となります。これら機材、インターネット環境に関する準備は、各ご家庭にてお願いいたします。

ena 企画本部（映像事業部）

映像事業推進のため2018年9月に入社した中村寿志専務執行役（元ソニービデオ関連事業責任者）は、コロナ禍となる前からenaでの映像事業の下準備を続けてきました。昨年は新たな形態の学習塾enastarを開校し、また現在ではenastarのオンライン事業の対応を進めています。これまでの取り組みと今後の展開について、企画本部の中村寿志専務執行役に話を聞きました。

Q 入社後、コロナ禍前までは主にどのような映像関連の事業を推進されてきたのですか。

中村 最初の約1年間は、社内の映像関連インフラの整備に注力しました。全校舎にプロジェクターやタブレット端末、Wi-Fi機器を設置すると共に、本部から各校舎に映像配信するシステムを立上げました。また、本社内に映像撮影用のスタジオをつくり、各種映像コンテンツ制作の基盤を確立しました。こうしたインフラを活用し、社内向けに社員研修用の動画コンテンツや実験を兼ねた映像授業の配信、社外向けには入試報告会や模試解説の動画の配信等を行いました。インフラ整備が一段落した後は、映像授業コンテンツ制作に本格的に着手しました。最初に事業化に漕ぎつけたのがena新セミ向けの映像制作です。2019年の夏期講習の映像授業を皮切りに、模試の解説動画を中心に映像制作を進め、売上拡大・収益化に寄与しています。また、映像授業主体の新しい学習塾enastarを開校することが正式に決まってからは、その映像コンテンツ制作に取り掛かりました。enaとは全く異なるコンセプトを映像授業で具現化すべく、カリキュラム・教材・授業構成等、全てゼロベースで作り上げると共に、一般的な映像授業との差異化を図るため、タブレットを活用した独自のICT映像授業システムの開発も並行して進めました。

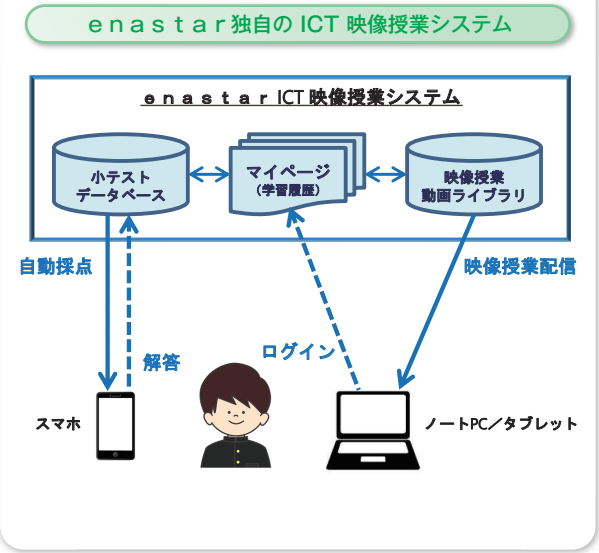
企画本部長　中村寿志

Q これまでの映像関連の下準備もあり、コロナ禍においてenaは映像授業に即座に移行できましたが、これらの対応の中でどのようなことにご尽力されましたか？

中村 対面授業を映像配信授業に切り換えるという方針を決めてから約1週間後に映像配信をスタートするという、極めてチャレンジングな日程でした。主に3つのことに留意しました。1つ目は、とにかく「スピード」です。他の業務を一旦中断し、映像の撮影や編集に必要な機材の調達に奔走しました。

2つ目は、「新たな映像制作の体制作り」です。小中本部単独で映像制作を進められるよう、各機材の使用方法、撮影の手順や映像制作のワークフロー等を実演しながら説明すると共に、それらの内容のチュートリアル映像を準備、それまでに映像チームが蓄積した技術やノウハウを小中本部のスタッフに短期間に効率的に共有できるよう努めました。

3つ目は、「安定的な映像配信」です。今までに前例の無い、大勢の生徒が同時に映像授業を視聴するという状況を鑑み、安定して映像配信出来る方法を検討し、実行しました。



Q enastarオンライン講座はどのような生徒がターゲットですか。

中村 enastarのオンライン講座は、「基礎力強化講座（小5～中3）」と「適性検査対策講座（小5・小6）」があります。「基礎力強化講座」は成績中位の生徒を対象に、楽しさや分かりやすさを意識した構成のもと、学習習慣を身に付けながら、基礎学力の強化を図る内容になっています。また、前述のICT映像授業システムにより、生徒の理解度を確認しながら学習指導を行います。一方「適性検査対策講座」は、適性検査型入試の受検を目指す生徒向けの講座です。enaのカリキュラム・教材を最大限活用しつつ、映像ならではの特長を活かした学習コンテンツとなっています。enastarの校舎で映像授業を積極的に取り入れた適性検査対策指導を約1年間行ってきましたが、その指導を通じて得た様々なノウハウが反映されており、オンライン講座でも高い学習効果が期待できます。いずれの講座も1科目から受講可能ですので、苦手科目克服のための補助教材としても活用いただけます。また、自宅で時間を選ばず受講できますので、部活や習い事との両立も可能です。

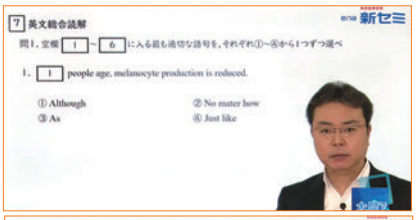
ena 新セミ

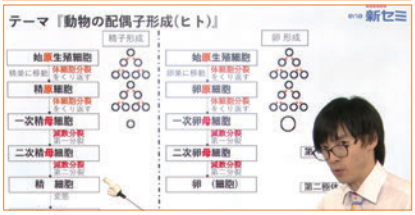
看護医療系の受験対策予備校である新セミでは、全国展開として映像授業を取り入れた模試の解説動画やオンラインコースを展開しています。その取り組みについて、大学受験本部の指方本部長に話を聞きました。

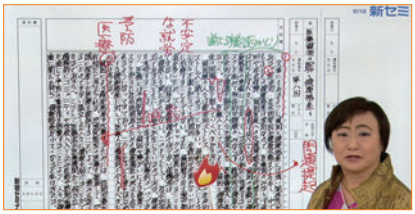
Q 映像授業はいつから、どのようなきっかけで取り入れることになったのですか。

指方 新セミへの映像授業は、2019年の夏期講習動画、9月全国模試解説動画から取り入れました。きっかけは新セミ仙台校の校長との東北地方の高校営業です。東北地方は広く距離的に仙台校に通うことができない生徒も多く、新セミとして生徒のために自宅学習支援が何か具体的にできないかと考え実施しました。特に、全国模試の解説動画は看護医療系の模試での導入は業界初となり、大変わかりやすい解説とのお声を多くいただいています。

大学受験本部長　指方祐二







期別講習・模試映像解説授業

これまでの視聴者数

2019年度受講者数
のべ10,750名
2020年度受講者数
のべ22,274名

(*2020/12/1現在)

看護医療受験 ena 新セミ

Q 映像授業を取り入れた狙いは何でしょうか。

指方 看護医療系の受験はかなり専門性のある分野だと思います。また、看護医療系受験は非常に根強い人気があります。看護医療系全国模試を実施している新セミとして、校舎に来校しなくても新セミのプロ講師の授業を提供できる映像授業は、看護医療系受験をする内生だけでなく、全国の生徒の看護医療系受験にも貢献できると判断したからです。

Q 新セミの3つのコースの特長（本科ライブコース、本科オンラインコース、単方向映像授業）と、それぞれの活用方法について教えてください。

指方 本科ライブコースは、校舎で直接プロ講師の授業を集団方式で受講できる授業です。同じ医療者を目指す仲間と切磋琢磨しながら生の迫力ある授業を受講できます。

本科オンラインコースは、校舎より校舎の授業をオンライン中継します。講師の顔が見える参加型の授業です。ネット環境さえあればプロ講師の授業を全国どこでも受講できます。

単方向映像授業はプロ講師の授業を録画した映像により、いつでもどこでも何度でも繰り返し学習できる授業です。

Q 新セミの映像授業ならではのこだわりやポイントを教えてください。

指方 看護医療系に特化した受験情報についても指導科という時間を作り映像授業として提供しています。看護医療系に特化した新セミの50年間分のデータが蓄積された看護医療系情報誌である「プログレス」を使い、受験指導を実施していることがポイントです。

Q 映像授業に関する生徒の感想や反響はどうですか。

指方 生徒や高校の先生には大変喜ばれていると実感しています。例えば、看護医療系受験の小論文の単方向映像授業を2020年の9月から販売しましたが、申込者の42%が学外生でした。通塾できない地域の高校の先生経由の申込も多く、直接お礼の電話をいただくこともあり、看護医療系受験の必須科目である小論文の受験支援ができてうれしく思います。

Q 来年度に向けて映像を活用した新たな取り組みとしてお考えのことはありますか？

指方 本科の授業に映像授業を組み合わせながら効果的な学習を提供することで、より志望校の合格に貢献していきたいと思っています。また、初となるオンライン専用校舎を秋葉原に2021年3月開校します。新セミの指導の特徴である、面接や願書添削などもオンラインでも対面でも選べ、秋葉原に自習室を完備した新しいタイプの校舎になります。

この新しいタイプの新セミオンライン校舎を今後さらに展開していきたいと考えています。

受講生の声

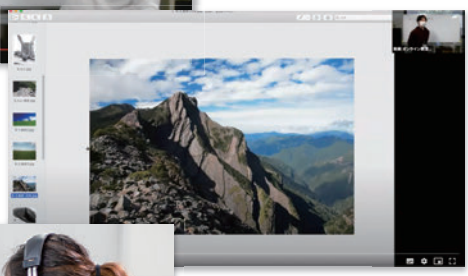
- 小論文は学校でも聞かないポイントがあり、とてもためになりました。
- 得意科目は早送り機能があり、時間が短縮できるので嬉しいです。
- 生物は得意だが、非常に勉強になりました。
- 英語は1時間くらい解説授業があっても全然OKです。英語は苦手な人もいるので受講したいです。

ena 新美

ena新美では、2020年より、時間的・地理的な理由で各校舎に継続的に通学できない方を対象に、新美講師がオンラインで指導を行う通信教育を実施しています。リアルタイムでのマンツーマンオンライン講評と、新美のこれまでの合格実績に基づく豊富な参考資料で、遠隔地の方の芸大・美大受験をサポートしています。

ena 新美 オンライン講座

◀Zoomによるオンライン教育科特別講義の様子



新美チャンネル

動画で【実技制作プロセス】の配信を行っています。制作過程や道具の使い方を動画で見て実感いただけます。

https://www.youtube.com/channel/UCDKr5XZAd8nA8LGae2wFsRg

その他 ena のデジタル化

enaでは教育コンテンツ以外でも、さまざまなデジタル化を推進しています。現在の取り組みについてご紹介します。

Webでの本科申し込みスタート

enaホームページから2021年度小中学部の入学申し込みができるようになりました。これまで入学申込にあたって保護者様に校舎で契約書を記入・提出していただく必要がありましたが、ご来校が不要となり簡単な入力だけでどこからでも申込可能です。

申込者情報の入力 ▶ 受講内容の選択 ▶ お申し込み

入学申込フォーム

https://www.ena.co.jp/blog/2020/12/01/web-entry/

※Webでの入学申込は、専用のフォームに入力いただいた情報を当該校舎にて確認させていただき、授業料納入の決済手続き等の完了、および担当校長との面談が終了した時点で正式なご入学とさせていただきます。

屋外デジタルサイネージで動画を配信

昨年12月中旬より校舎屋外に動画配信用のデジタルサイネージを順次設置しています。このデジタルサイネージでは、動画でenaの「映像授業ダイジェスト」や「enaニュース」など、enaの最新情報を発信していきます。今後は、「enaニュースの現地リポート」、「都立高紹介動画」なども紹介予定です。ぜひご覧ください。

「都立高映像講演会」をena ホームページで公開しています

2020年10月～11月に都立高校10校の校長先生をena本部のスタジオにお招きし、それぞれの学校の教育方針や特徴などをお話しいただきました。この内容については現在、「都立高映像講演会」としてenaホームページにて公開しています。なおオンラインライブ映像講演会として実施した日比谷高校・西高校については、当日の質疑応答の様子も合わせてご覧いただけます。また、各講演会の後半はena中学部による各校の受験対策についての解説動画となっています。

「都立高映像講演会」の視聴期間は2021年2月末までです。ぜひご覧ください。

今回のGAKUでは、日比谷高校、西高校、国立高校の講演内容の一部をご紹介します。

日比谷高

西高

国立高

戸山高

青山高

立川高

八王子東高

国分寺高

新宿高

国際高

映像講演会の様子

各校の校長先生よりスライドを使用した学校生活の概要や進路に関する説明をしていただきました。日比谷高校・西高校オンラインライブ映像講演会では生徒・保護者様からの学校生活や受験対策等に関する質問にもお答えいただきました。

ena中学部による解説動画

各動画の後半は、ena中学部の独自分析による各校の受験対策に関する解説動画をご覧いただけます。

ご視聴方法

https://www.ena.co.jp/toritsu-kouen/

講演会の視聴にあたっては、各講演会専用のパスワードが必要となります。視聴を希望される方は、ena各校舎までお問い合わせください。

映像講演会一覧

ご講演			
都立日比谷高校	校長	武内　彰	先生
都立西高校	校長	萩原　聡	先生
都立国立高校	校長	佐藤　文泰	先生
都立戸山高校	校長	櫛野　治和	先生
都立青山高校	校長	小澤　哲郎	先生
都立立川高校	校長	吉田　順一	先生
都立八王子東高校	校長	宮本　久也	先生
都立国分寺高校	校長	糸井　一郎	先生
都立新宿高校	校長	加藤　隆	先生
都立国際高校	校長	米村　珠子	先生

東京都立 日比谷高等学校

武内　彰 校長

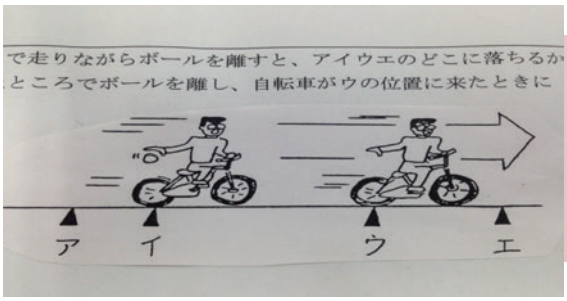
武内彰校長先生より、日比谷高校の目指す学校像、大切にしている教育活動の3つの柱、進学指導体制、日比谷の入学者選抜の傾向等についての説明がありました。「知の日比谷」を合言葉に、グローバル社会の中でのリーダーの育成を目指し、勉強だけでなく学校行事や部活動にも「知」をもって取り組んでいること等をお話しいただきました。

公式マスコットキャラクター（ひびやくん）

教育活動3つの柱

質の高い授業づくり

自分の頭で考えることを大事にする日比谷高校の授業の一例として、物理基礎の授業をご紹介いただきました。



▲一定の速さで走っている自転車からの落し物の落下位置に関する問題

文武両道を貫徹

学校行事は生徒たちの力でつくり上げます。校外学習では教科書では分からない自然の姿を学ぶことができます。

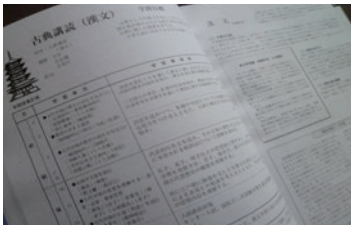
▼体育祭（5月）

▼星陵祭 クラス演劇（6月）

▲夏山キャンプ（7月）

高めあう集団づくり

シラバスや生徒による授業評価、添削指導など生徒・教職員一体となった進路指導を行っています。



▲3年間の授業内容、使用する教材、学習方法等をまとめたシラバス

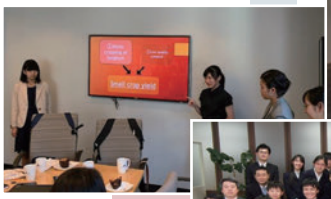
SSH／東京グローバル10指定校

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）、東京グローバル10指定校

日比谷高校は文部科学省よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）、東京都教育委員会から東京グローバル10（次世代を担うグローバル・リーダーの育成）の指定を受けています。

選抜されたメンバーは海外派遣研修などさまざまな経験を積むことができます。

▼ボストン・ニューヨーク研修 専門家の前でのプレゼン



▼ボストン・ニューヨーク研修 ASPEN 研究所

▲SSH修了授与（卒業時）

東京都立 西高等学校

萩原　聡 校長

萩原聡校長先生より、これからの社会で求められる力、西高が育てたい生徒像などについての説明がありました。また、生徒の育成についても具体的にお話しいただき、4月～5月の臨時休業中の学習指導、グローバル化に対応した英語教育、様々な著名な方を招いての講演会、対談、討論会などの教養教育など、西高ならではの特色ある取り組みをご紹介いただきました。さらに、西高オリジナルの「進路ノート」を活用した系統的・段階的な進路指導や課外活動の紹介等についても詳しくご説明いただきました。

西高の教育の特徴

国際社会で活躍できる器の大きな人間の育成を目指し、西高は様々な教育を行っています。

英語4技能の向上

西高は東京都の「グローバル10」の指定を受けており、オールイングリッシュでの授業や英語でのディベートなど、英語4技能の向上を目指すことができる授業内容となっています。海外留学のプログラムもあります。

▲西高の英語教育の取組について生徒がまとめた資料

◀ボストンの高校生と一緒に授業を受けるアメリカ研修

校外学習の実施（理科）

校外学習では教科書では分からない自然の姿を学ぶことができます。

▲三宅島での野外実習

様々な教養教育

世界に対しての幅広い視野をもつことを目的として様々な著名な方を招いて講演会や討論会などの教養教育を積極的に行っています。（過去のゲストはノーベル物理学賞受賞の中村修二教授、直木賞作家の朝井リョウさん等多数）

▲卒業生による講演会の様子（勝山良彦氏）

特別活動の充実

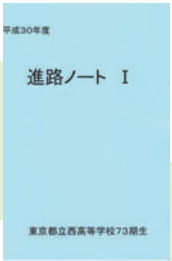
自由な校風の中で生徒たちが企画運営する学校行事や多くの生徒が積極的に参加しているクラブ活動など、授業以外の活動も充実しています。

▼平成30年秋には都ベスト4になったアメリカンフットボール部

▲生徒たちの企画運営による記念祭（文化祭）

オリジナル進路ノート

オリジナル進路ノートを活用し、入学時から系統的・段階的な進路指導を行っています。



1年　学習サイクルの確立
自己理解・職業研究

2年　志望校の決定
大学研究・文理選択

3年　第一志望校への合格
実力養成・進路実現

東京都立 国立高等学校

佐藤　文泰 校長

佐藤文泰校長先生より、「全力で駆け抜ける3年間」というテーマで、これからの社会の状況の変化に柔軟に対応できる力を養うために、3つのC（クリティカルシンキング・クリエイティブシンキング・コラボレーション）を通して課題発見力・課題解決力・創造性を培う国立高校の教育方針についてお話しいただきました。

また、勉強のみならず、日本一の文化祭といわれる国高祭、部活動等に積極的に取り組む様子など、大学進学のみを目的としていない国高での充実した高校生活についてもご紹介いただきました。

国高の特色

大学入試の傾向を意識し、基本をしっかりと身につけたうえで主体的に課題発見力や問題解決力を高める教育を行っています。

グループ学習やネイティブの英語教師の授業を行っているほか、授業以外でも勉強したいという意欲のある生徒に対するきめ細かい学習指導を行っています。

▲主体的に学ぶグループ学習

大学レベルの▶
オリジナル教材
The 国高 Heritage

◀化学の朝練プリント

▲ネイティブの英語教師による授業

多彩な文化活動や部活動

プロのオーケストラのもとで歌う第九演奏会、クラス演劇を中心とした日本一の国高祭など、国高でしか経験ができない学校行事に参加することで課題発見・問題解決を実践し、よりよく生きる力を育みます。

▲プロのオーケストラと共演　第九演奏会

▼国高祭　クラス演劇の様子

▲人生の宝となる友と出会える部活動

▲国高祭（体育祭）

ena 小学部長 解説

都立中で求められる作文

自分の考えを文章にすること、表現することが重要になる都立中適性検査。適性検査Ⅰの作文問題では特に適性検査で必要な力が試されます。ここでは適性検査においてより評価される作文とはどのようなものか、ポイントをご紹介していきます。

いきなりですが、まずはこちらの二本の作文をご覧ください。

問 あなたが運動会から学んだことについて書きなさい。

❶「パアン！」ピストルの音が鳴り響き、第一走者たちはいっせいにかけだした。最初のコーナーではほぼ横並びだった走者たちは、少しずつ縦に並びはじめ、私たちのクラスは一位、二位とのわずかな差で三位につけていた。

しかし、第二走者へバトンが渡るとき、スピードが落ち始めるほかの走者たちと違い、私たちはトップスピードのままバトンパスをしていくことが出来、最後にはみごと一位でゴールをすることが出来た。特別足が速い生徒はうちのクラスにはいないが、だからこそ、バトンパスの練習を徹底的に行い、見事それが実を結んだのだ。

今年の運動会の、この体験を通して、私は力を合わせることがどれだけ大切かを学んだ。これからも、一人では出来ないことでも、周りの人々と協力し、のりこえていくことで大きなことをなしとげていきたい。

❷私が運動会で学んだことは、力を合わせることの大切さだ。力を合わせることで、一人ではできないようなことでも、それをやりとげることができる。

運動会の最後には、クラス対抗のリレーがある。私たちのクラスは、ほかのクラスと比べると足が速い人が少ないので、予行練習の際には大きく引き離されて最下位となってしまった。これがくやしかった私たちは、作戦会議を開いた。本番までのわずかな時間の中で、一人ひとりの足を速くすることはできない。そこで、私たちはバトンパスをたくさん練習することにした。バトンパスをスムーズに行うことが出来れば、足の遅さをカバー出来、一人ひとりが最も速い速度でいる時間を長くすることが出来る。もう練習を行った末、本番ではみごとその成果をはっきして、私たちは一位を取ることができた。

だから、私が運動会を通して学んだことは、協力することの大切さである。私たちは、力を合わせることで、より大きな力を生み出すことができる。これからも、一人では出来ないことでも、周りの人々と協力し、のりこえていくことで大きなことをなしとげていきたい。

果たして、この二本のうち、良い作文はどちらでしょうか。

運動会や遠足の作文などは、小学校で作文を書く数少ない機会です。保護者の皆様も、生徒たち自身も、書いた経験があることかと思います。先ほどの二本の作文ですと、おそらく、小学校では❶の作文の方が高い評価を得るでしょう。

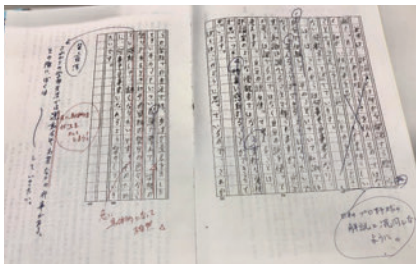
では、どういった点が評価されるのでしょうか。出だしのところから聴覚的な描写が始まり、実際の競走の進行に合わせて書かれているため、実際のリレーを見ているような、臨場感のある書き方となっています。それと比べると、❷の第一段落はずいぶん固い印象に見えると思います。端的に言えば、❶の方が読んでいて面白いと思われやすい作文となっています。

しかし、この「面白い」は、何かの評価をする際には、とても難しい規準になります。例えば、理科と社会で、面白い教科はどちらでしょうか。野球とサッカーで面白いのはどちらでしょうか。いずれも、人の価値観によって左右されるもので、絶対的な評価を下すことは出来ません。文学の世界においても、例えば夏目漱石と川端康成の、いずれの作品の方がより面白く、優れているかは、判断する人により答えは異なるでしょう。このように、「文学的文章」的な意味での文章の面白さを基に評価を下すのは、合格者を選抜する適性検査には、適しているとは言えません。ですので、都立中の適性検査では、そういった文章力の有無としての作文力ではなく、別な尺度で優劣がつけられるようになっています。

出題方針から見る適性検査Ⅰ

都立中の適性検査においては、各学校から「出題の基本方針」が出されます。そちらの適性検査Ⅰについての出題の方針を見ると、このように書かれています。「文章の内容を的確に読み取ったり、自分の考えを論理的かつ適切に表現したりする力をみる。」面白い文章を書く力や、独特の表現力ではなく、自分の考えを分かりやすく書けるかどうか、の勝負であることが明確に書かれています。冒頭の二本の作文で言えば、「あなたが運動会から学んだこと」が問われているものですから、これに対して端的に答えることが出来ているのは、明らかに❷の「私が運動会で学んだことは、力を合わせることの大切さだ。」という一文です。そしてその理由や、根拠となる具体的な情報が後に続き、その意見の妥当性が論理的に説明されています。都立中の作文においては、❷のような作文の書き方が求められているのです。

これは、都立中に合格したい、と考える志望者には大変肯定的に受け止めるべき事実です。なぜなら、読んで面白い作文、文章力のある作文はセンスによって左右される部分が大きく、練習により伸ばしていこうとしても、大変長い時間をかける必要があります。仮に、こうすれば面白く書ける、といった技法などがあったとしても、多くの受検生が習得したとたん、それはありふれた書き方になってしまうということも言えます。しかし、論理的に考えを説明する書き方は、言葉通り論理によるものですから、望ましい書き方を頭で理解して、習得することが可能です。その結果多くの受検生と書き方が重複したところで、そこは合否判定とは関係のない部分ですから、受検生たちはみなその王道を目指して練習していけばよいことになります。ｅｎａではその王道にいち早くたどり着き、多くの合格者を輩出してきました。



近年の適性検査Ⅰの出題傾向

文章力といった採点者の主観に左右されうるものではなく、客観的に作文を採点するための「論理性」で評価する、という傾向は少しずつ強まり、近年の都立中においては、それぞれの段落で書くべき内容まで指定されるようになっています。構成のばらつきをなくし、「王道」を知っているか否かで勝負が決まる面を排除するとともに、採点を容易にすることで、より客観的に、公平に採点が出来るように変化をしてきたと言えます。ここ一、二年の問題に関して言えば、「正解」がある作文と言えるものも出題されています。

いわゆる「作文」というよりも、「字数の多い記述問題」というイメージの方が近いかもしれません。正解がある問題だからこそ、その望ましい正解を、これまでの合格者たちの答案から教えてもらっているｅｎａは、より的確にそこへ近づく指導を行っています。

冬期講習会

12月26日～1月10日

合格するための冬

ena 冬期講習会・正月特訓

受験生にとっては合格するための冬、非受験学年にとっては新年度に向けての土台づくりのための冬。enaでは12月26日～1月10日の期間にて各校舎で冬期講習会・正月特訓を行いました。期間中の校舎での様子等をご紹介します。

座席の間隔を空ける等、感染症予防対策をしっかりとした中で集中して取り組みました。

小3・小4 ふしぎ教室

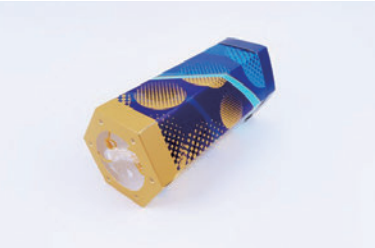
楽しみながら理科の原理も学べるものづくり教室です。実験・工作の過程をすべて自分自身の手で確かめながら実行するために、ひとりひとりに専用キットを配布しました。

【人体模型を作ろう】
ヒトの臓器の役割とつながりを学ぶ

【宝石のせかい】
結晶のでき方を学ぶ実験

【ライトのしくみ】
電気の流れを理解する実験

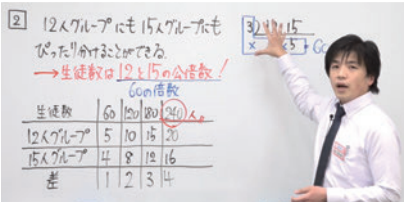
【空気砲と渦輪】
空気について理解する実験



ena初 予想問題チャレンジ

入試本番を想定した「予想問題チャレンジ」を本年度新設。2021年度入試出題内容を予想し、小6は適性検査タイプ、中3は自校作成型か都立共通といったように志望校に合わせた問題で演習を行いました。

演習後はスター教師陣による映像解説を繰り返し視聴し効果的に得点力アップを目指しました。



受験生を応援する特別動画「ファイナルチェックTV」をenaホームページにて公開しています。

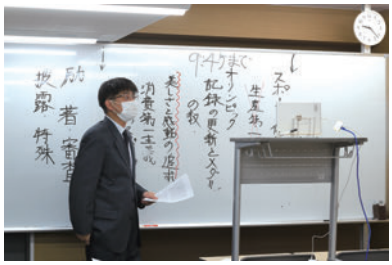
1月23日までの各土曜日20時に公開し、都立中・都立高入試当日まで繰り返し視聴が可能です。小6は「ここだけは押さえておきたい」適性検査理系の重要ポイントを総整理、中3は合否を決める理科・社会の過去問を解説した映像授業をご覧いただけます。

正月特訓

12月30日～1月3日

新型コロナウイルスの感染者増による昨今の状況を鑑み、会場での実施を中止しＺｏｏｍによる双方向映像授業での実施としました。
近隣校舎の生徒や、同じ志望校の生徒とオンライン上でつながり、対面授業と変わらない熱量と集中力で４日間の特訓に取り組みました。

正月合宿は特訓へと変更され、オンラインでの実施（12月30日～1月2日）となりましたが、もともと予定されていた合宿場ごとの担当教師、クラス編成で授業を行いました。



各配信会場では授業の配信に必要なモニターやカメラを生徒が見やすい高さに調整しながら設置し、トラブルがないようにチェックを行ったうえで、１日405分、合計４日間のカリキュラムに集中して取り組みました。

ena小中学部 冬期講習会

※学年によって開講日数が異なります。

2020年12月						2021年1月									
26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
冬期講習会各コース				小5・小6・中3 正月特訓		休校日	小5・小6・中3 正月特訓		冬期講習会各コース				小6・中3 予想問題チャレンジ		冬期講習会各コース
				中1 理社			中2 理社								

対面授業と映像授業の融合にて実施

※正月合宿は正月特訓に変更、正月特訓は会場での対面授業をオンラインで行う双方向映像授業に変更して実施しました。

小学部	校舎での対面授業	双方向映像授業	単方向映像授業	ライブ映像授業
小３コース	●		●	
小４コース	●		●	
小５コース	●		●	
小５正月特訓			●	●
小６コース	●		●	
小６予想問題チャレンジ			●	
小６正月特訓		●	●	

中学部	校舎での対面授業	双方向映像授業	単方向映像授業	ライブ映像授業
中１コース３科	●		●	
中１理社			●	●
中２コース３科	●		●	
中２理社			●	●
中３コース	●		●	
中３予想問題チャレンジ			●	
中３正月特訓		●	●	

教えて！ 学院長教育相談 第3回 Q&A

保護者の方々からの受験や勉強方法など、様々なご質問に河端学院長が回答します。

Q 反抗期の子供たちへの接し方に悩みがあります。受験に向けて親としてどのよう接していけばよいでしょうか。

反抗期は、非常に強烈に反抗する子も、ほとんど反抗しない子もいるので人それぞれです。したがって、その子に合わせて対応しなければならないと思います。

反抗期はある日突然なるのではなく、徐々にそういう傾向が出てくるものです。傾向が見えたときにあまりあしろこうしろと言わず、伝え方に工夫があると良いのではないかと思います。例えばだらしがない、靴の脱ぎ方が汚い、部屋を片付けない、勉強すべきときにしないということをいつも同じように注意する必要は必ずしもないと思うのです。

では反抗期にこちらから何も言わないほうがいいのか、というとそうではありません。反抗期の子どもは親の言うことは聞きませんが友人や親戚、特に目上の方の言うことはよく聞くということがよくあるので、そういう方からや、ｅｎａにお通いになっている場合は教師から伝えたり誘導したりするという方法が良いと思います。

つまり、放っておけば良いのです。しかしずっと放っておくのではなく、反抗期の傾向が見えたら「じゃあしばらく何も言わないからね」とぱっと手を放してみて、一ヶ月程経ってから子どもの様子を見て、「放っておかれてどうだった？」と言ってみるのです。子どもは手を放されると驚くと同時に、自分が親に守られていたことに気が付きます。そのように改めて関係性を作っていく工夫があっても良いと思います。

Q 受験勉強中、子供の心が折れかけたときの本人の気持ちの持ちようや立ち直り方と合わせて、子供を支える親としての心構えを教えていただけないでしょうか。

私が保護者様を見ていて気になることは、常に同じようなトーンでお子様にお話しされていることです。子どもたちも調子が良いとき、悪いとき等色々なときがありますので、受験指導にしても受験勉強を支えるにしても、子どもたちの様子をよく見て、強弱やメリハリを考えてお話しいただくのが大変良いと思います。また、我々プロは小学校算数の分数、中学校英語の関係代名詞等、子どもたちがつまずきやすいところがわかっていますが、保護者様はわからない場合が多く、そういうところで親子が諍いすることが多いのです。実際に成績が悪い状態になったときに親に怒られて以来勉強するのをやめてしまった生徒がいました。

私が指導していた大変優秀な生徒の例ですが、大学受験の模擬試験でいつも偏差値75近くでA判定ばかり取っていたにもかかわらず、ある年の9月の模擬試験でいきなり偏差値48程度の成績を取ってきたことがありました。その生徒に理由を聞いたら、「暑かったのです」と言ったのです。そこで「暑いと感じたのであれば自分一人だけではなく受験していた生徒はみんな暑いと感じていたはずで、そうであれば偏差値も全体に影響するのだから自分だけが偏差値48を取るのはおかしい」と言ってしまうのは教師としては素人です。その生徒が暑いと言ったら本当に暑かったのだ、というように理解するのがプロの教師だと私は思っています。暑いと感じなければ次月の模擬試験で元の成績に戻るはずだと期待するのです。一月程のことであたふたしないということが人を指導する場合に大変重要なことだと思います。

したがって、子どもの心が折れることではなく、対処の方法に問題がある場合が多いのです。対処の方法によっては、子どもはもっと折れてしまいます。ぜひその点についてはお気をつけいただきたいと思います。

Q 子供の机は散らかり、筆箱の中もぐちゃぐちゃで、ノートも汚いです。注意しても良くならないのですが、改善するための声かけや対応方法などがありましたら教えていただけないでしょうか。

これは重要な視点だと思います。ｅｎａの生徒学習指針の中にある「几帳面な生活態度（明窓浄机＝明るい窓と浄（きよ）い机）」は成績向上のための条件であり、まさにこれは小学生や中学生の前半には大事ですので保護者様が指導されるのが良いと思います。

例えばノートで言えば、私は子どものとき、授業中に先生から聞いたことは鉛筆で書き、後でその上から万年筆でなぞって書き直し、鉛筆部分を消しゴムで消すという方法でノートを作っていました。つまり「記録すること」と改めて「きれいに書くこと」を分けることで成績向上につながるのです。ｅｎａでは社員専用につくっている一週間が見開きで見える手帳とフリクションボールペンを社員全員に配布し、休日も含めて予定を入れ、予定が変更になれば書き直しながら自分の一週間、つまり人生をデザインするように、と伝えています。このような学校ではあまり教えられない知的生産の技術を発展させていくことは、これから様々なことを学んでいく発展途上の子どもたちにとっては大変重要なことなのです。

また机で言えば、大人でも机がぐちゃぐちゃの状態で仕事をしたいという人と、きちっと片付いた状態で仕事をしたいという人が両方おられます。それはその環境が好きという状態になっているからなのです。したがって、片付けさせるというより片付いた環境が好きという状態にすることが効果的です。子どもの自主性が失われるといったこと等はおっしゃらず、「几帳面な生活態度」にさせるようにお手伝いされると良いと思います。

▲ 社員に配布している手帳とフリクション（非売品）

Q 成績が落ちているのに焦る様子がなくスマホやゲームばかりしている息子に対して、どのような声かけをしていけば良いか教えていただけないでしょうか。

私は、受験生にとってスマホとゲームとテレビは「三毒」であると言っています。「三毒（欲・怒・迷）」は元々仏教の考え方で、例えば満員電車の中で隣の人の肩が当たり嫌だと思う「怒」、良い成績を取って褒められたい、志望校に合格したいと思う「欲」というように人間は朝起きてから夜寝るまでこの三毒で満たされているという考え方です。受験生にとって「三毒」がなければ成績は伸びるということです。

「三毒」から解放するため、私たちは合宿を実施しています。合宿に行ったらスマホ等すべてこちらで預かります。そうすると一瞬子どもたちは何をしていいかわからないという思考停止状態になります。それだけ子どもたちはスマホやゲームに依存しているということです。しかし合宿で勉強をしていくうちに、スマホやゲームがなくてもやっていけるのだとわかってきます。その後、自分の存在やこれからの生き方等、より本質的な問題に達することができるからです。「三毒」への依存から解放し、正常な状態になれば成績が伸びていきます。

また、やはりお子様との話し合いも重要です。色々な条件をはっきりおっしゃって良いと思います。例えば、携帯やゲームは一日何時間、その代わりにお小遣いの金額を上げるという対価を出す、そういうことでも良いと思います。

保護者様からのご質問に河端学院長がお答えします。家庭での教育方針や受験についてなど、河端学院長にご相談・ご質問のある方は、以下のアドレスまたはＱＲコードからお受付します。（お名前は公表しません。）

https://www.ena.co.jp/kyouikusoudan/

広報誌『学』
VOL.19
発行:ena企画・広報部
発行責任者:元木　梓
2021年1月発行

ena

個別ena

芸大・美大受験
ena 新美

看護医療受験
ena 新セミ